

みえメディカルバレー構想

第4期実施計画

平成28年3月

みえメディカルバレー推進代表者会議

目 次

I	みえメディカルバレー構想について.....	1
1	みえメディカルバレー構想.....	1
2	みえメディカルバレー構想第3期実施計画の取組と成果.....	1
(1)	みえメディカルバレー構想第3期実施計画のめざす姿と基本 方向.....	1
(2)	第3期実施計画の取組と成果.....	2
①	基本方向1「産学官民連携の充実」の取組と成果.....	3
②	基本方向2「技術力・地域力の充実」の取組と成果.....	4
③	基本方向3「みえライフイノベーションの推進」の取組と成果..	9
④	基本方向4「情報発信・収集の充実」の取組と成果.....	16
II	みえメディカルバレー構想第4期実施計画.....	19
1	現状と課題.....	19
2	第4期実施計画のめざす姿.....	24
3	実施期間.....	25
4	基本方向.....	25
5	基本方向の具体的取組.....	27
(1)	ヘルスケア産業の連携基盤の充実・強化.....	27
(2)	医薬品・化粧品・医療機器・機能性食品等産業の競争力強化.....	29
(3)	新たな健康需要に対応するヘルスケア産業（次世代ヘルスケア 産業）の創出.....	32
6	事業目標等.....	34
(1)	事業目標.....	34
(2)	参考指標.....	35
7	評価・検証.....	35
(1)	年度事業計画の評価と検証.....	36
(2)	中間評価と検証.....	36
(3)	4年間の評価と検証.....	36

参考資料

1	みえメディカルバレー構想 実施計画の推移.....	39
2	みえメディカルバレープロジェクト 実施体制.....	40
3	みえメディカルバレー推進代表者会議委員名簿.....	41
4	みえライフイノベーション総合特区地域協議会委員名簿.....	42
5	みえメディカルバレー企画推進会議委員名簿.....	43
6	みえメディカルバレー構想の年表.....	44

※本文中の“【 】”について

「Ⅰ.2.(2)第3期実施計画の取組と成果」中の記載は、取組を行った実施主体を、
「Ⅱ.4 基本方向の具体的取組」中の記載は、想定される取組を行う実施主体を示しています。これらの取組は、現時点で適当と考えられる取組の例示であり、実際の取組や実施主体は、その時点の状況を考慮して検討するものとします。

I みえメディカルバレー構想について

1 みえメディカルバレー構想

みえメディカルバレー構想は、医療・健康・福祉産業（ヘルスケア産業）を戦略的に振興することにより、本県の地域経済を担う新たなリーディング産業の創出と集積を図るとともに、医療・健康・福祉に関連した質の高い製品やサービスを供給できる地域づくりをめざしています。

この構想は、産学官で組織する「メディカルバレー構想策定検討委員会」（会長：三重大学学長）による検討をふまえ、平成 14 年 2 月に県が策定したものであり、構想に掲げる下記の基本理念に基づいた取組を「みえメディカルバレープロジェクト」として、同年 4 月から産学官民の各主体が取組を実施しています。

基本理念

地域資源を有効に活用し、競争力のある医療・健康・福祉産業の振興に取り組み、活力ある地域づくりと県民の健康と福祉の向上をめざします。

2 みえメディカルバレー構想第 3 期実施計画の取組と成果

(1) みえメディカルバレー構想第 3 期実施計画のめざす姿と基本方向

みえメディカルバレー構想では、産学官民の各主体が取り組む「みえメディカルバレープロジェクト」について、県内産学官民組織で構成する「みえメディカルバレー推進代表者会議」が計画期間中にめざす姿と取組の基本方向を定めた実施計画を策定しています。

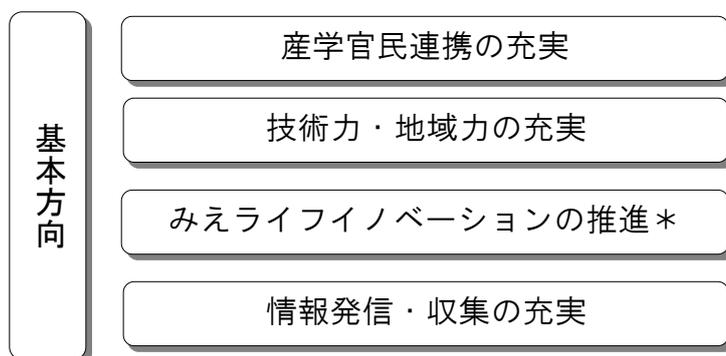
これまで、平成 14 年度から 19 年度までを第 1 期実施計画（「立ち上げ期」）、平成 20 年度から 22 年度までを第 2 期実施計画（「基盤整備期」と位置づけ、各実施計画で定めためざす姿と取組の基本方向に基づき各種事業に取り組んできました。

平成 24 年度から 27 年度までの第 3 期実施計画（「成長期」）では、これまでの成果や課題、社会情勢の変化等を勘案し、めざす姿と取組の基本方向を次のとおり掲げ、産学官民の各主体が取組を行なってきました。特に、第 3 期実施計画では、質的・量的にニーズが拡大し、潜在的市場価値の高い医療・健康・福祉分野について、ライフイノベーションを通じて、新たな産業の創出につなげるため、基本方向の一つである「みえライフイノベーションの推進」に関する事業を重点的に取り組んできました。

【第3期実施計画のめざす姿】

- ・ 県内各地域で医療・健康・福祉分野の先進的な取組が行われ、産業が活性化しています。
- ・ 医療・健康・福祉分野の産学官民連携の基盤を活用し、本分野で活用される製品やサービスが次々に生み出されています。
- ・ みえメディカルバレープロジェクトで生み出された製品やサービスを県民が享受し、健康な生活を送り、福祉の充実につなげています。

【第3期実施計画の基本方向】



*ライフイノベーション：

医療・健康・福祉分野で、新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすことをいい、革新的な医薬品、医療機器、医療・介護技術等の研究開発の促進や関連産業の活性化をめざす。

(2) 第3期実施計画の取組と成果

第3期実施計画の事業目標と27年度までの成果

指 標	目標値 (27年度)	実績値 (24~27年度)
医療・健康・福祉分野の製品開発取組数	32件	39件
治験受入件数	100件	167件
企業立地・第2創業数	20件	39件

① 基本方向1「産学官民連携の充実」の取組と成果

ア フォーラム、セミナー等の開催

医療・健康・福祉分野に関わる県内外の産学官民の情報共有やネットワークの拡充を図るため、各主体が医療・健康・福祉分野に関する様々なフォーラムやセミナー等を開催しました。

【大学等、団体、行政】

主な取組

【MieLIP・県】

- ・MieLIP キックオフフォーラム
- ・みえライフィノベーション総合特区フォーラム
- ・中部地域医療機器関連産業支援フォーラム in みえ
- ・みえライフィノベーションフォーラム

【大学等】

- ・食のアカデミーセミナーinTOBA（三重大学）
- ・先端研究シンポジウム（三重大学）
- ・三重大学サイエンスカフェ
- ・三重大学産学官連携セミナーin伊賀
- ・健康社会を支えるセミナー（鈴鹿医療科学大学）
- ・三重大学・鈴鹿医療科学大学合同産学官交流フォーラム
- ・ワークショップ、ライフセミナー（鈴鹿大学／鈴鹿短期大学）
- ・工学専門講座（鈴鹿工業高等専門学校）
- ・公開講座（三重県立看護大学、四日市看護医療大学、四日市大学、皇學館大学、鳥羽商船高等専門学校、近畿大学工業高等専門学校）

【団体等】

- ・健康教育講演会（三重県医師会）
- ・食と健康フォーラム（三重県歯科医師会）
- ・健康講座（三重県薬剤師会） 等



中部地域医療機器関連産業支援フォーラム in みえ(H26.12月、津市)

左:鈴木三重県知事、右:佐野名古屋工業大学教授

イ メディカルバレー推進体制の充実

みえメディカルバレープロジェクトの方向性や取組に対する意見の聴取等を行い、ネットワークの充実と効果的な事業の推進を図るため、県内産学官民組織で構成する「みえメディカルバレー推進代表者会議」や産学官民関係者による事業推進組織「みえメディカルバレー企画推進会議」を開催しました。

また、平成24年に国から指定を受けた「みえライフイノベーション総合特区」の取組を推進するため、産学官民に金融機関を加えた組織で構成する「みえライフイノベーション総合特区地域協議会」を設置し、取組状況に対する意見や提案等を行いました。

さらに、平成25年に開設した県内7か所の研究開発支援拠点「みえライフイノベーション推進センター（MieLIP）」の取組に対する拠点間連携を図るため、連携会議を開催しました。

【行政、大学等、関係団体、企業等】

- ・みえメディカルバレー推進代表者会議の開催
- ・みえメディカルバレー企画推進会議の開催
- ・みえライフイノベーション総合特区地域協議会の開催
- ・「みえライフイノベーション推進センター（MieLIP）」連携会議の開催

② 基本方向2「技術力・地域力の充実」の取組と成果

ア 事業者への支援

県内中小企業等の研究開発、製品開発や販路開拓など企業活動を支援するため、技術相談、出前キャラバンや外部専門家派遣などを実施しました。

【大学等、関係団体、行政】

主な取組

【大学、関係団体】

- ・県内中小企業の技術支援・コーディネート等（三重大学、三重TLO、三重県産業支援センター）

【県】

- ・各種技術相談、出前キャラバンの実施（三重県工業研究所）

イ 各種専門研修会等の開催

医療・健康・福祉分野の高度化を目的として各種専門研修会等を開催しました。

また、異業種からの参入支援を目的として薬事関係法令や許可等に関

する研修会等を開催しました。

【行政、大学等】

主な取組

【県】

- ・企業の研究開発技術人材の育成をめざした専門研修（三重県工業研究所）
機器取扱講習
基盤技術研修講座
先進技術セミナー
- ・薬事関係技術高度化研修会（三重県薬務感染症対策課）

【大学等】

- ・薬剤師対象生涯研修セミナー（鈴鹿医療科学大学）

ウ 治験ネットワークの活用

三重県内での治験や臨床研究を推進し、高度先進医療の提供をめざして三重大学と NPO 法人みえ治験医療ネットを中心に取り組む「みえ治験医療ネットワーク」（基幹病院 26 施設、中小規模医療機関 97 施設、計 123 施設）について取組の充実、強化を図るため、企業等の依頼による大規模治験の受入推進や治験に対する県民への普及啓発、他地域の治験ネットワークとの連携等の取組を実施しました。

【大学等、NPO、県内医療機関】

主な取組

- ・平成 15 年度から 26 年度までの契約試験数 累計 323 件
- ・臨床研究・治験に関する意見交換会の開催
- ・県内基幹病院で治験の普及啓発活動
- ・地域治験ネットワーク会議への参画 等

エ オープンラボの整備

県内の食・医薬品関連企業による地域資源を活用した高付加価値製品の開発や新たな食品関連産業の創出を支援するため、三重大学と県工業研究所が連携して整備した「みえ“食発・地域イノベーション”創造拠点」の運営や県工業研究所が所有する試験研究機器を企業に開放し利用いただきました。

【大学等、行政】

主な取組

【県】

- ・県工業研究所が所有している試験研究機器の企業への開放等

オ 福祉ものづくりの促進

三重県身体障害者総合福祉センター内に設置した「みえテクノエイドセンター」を中心として、大学や企業等と連携し、高齢者や障がい者に適した福祉用具及び自助具の改良、新たな製品開発につなげるための利用者のニーズ収集、福祉用具に関する適切な情報提供や普及啓発を行いました。

【大学等、関係団体、行政】

主な取組

【県、みえテクノエイドセンター】

- ・みえ福祉用具アイデアコンクールの実施
- ・みえ福祉用具フォーラムの開催（津市） 等



みえ福祉用具フォーラム(津市)

カ 人材の育成

薬事関連企業の新規採用者を対象として、薬事関連法令の研鑽と即戦力を養うことを目的としたGMP基礎講習会や研修会を開催しました。

また、県内の薬系高度人材を確保するため、薬系大学や関係機関と連携したインターシップの受け入れ等を実施しました。

さらに、三重大学においては、高度な研究開発に関する能力、研究開発のプロジェクト・マネジメントに関する能力、グローバル化に対応した国際感覚を持った人材育成に取り組むとともに、鈴鹿医療科学大学においては、鈴鹿ロボケアセンターと連携し、ロボットスーツHALによる高度なリハビリ技術を持つ人材育成に取り組みました。

また、県内の工学系の大学や高専では、社会課題に対して教育を兼ねて解決を図るため、ロボットを含めた医療・福祉機器開発に関する人材育成の取組を進めました。

【大学等、関係団体、行政】

主な取組

【薬事工業会】

- ・GMP基礎講習会

【県、薬事工業会】

- ・薬系大学生のインターシップの受け入れ
- ・大学主催による就職説明会への参加 等



薬系大学生のインターシップ

キ 商談会・マッチングの促進

県内中小企業等と国内外企業とのマッチングや販路拡大、販売促進等の支援するため、展示会、商談会の開催や国内外の展示会への出展、県内ものづくり企業や大学のシーズ集作成等を行いました。

【行政、大学等、企業】

主な取組

【MieLIP、大学等、関係団体、県】

- ・みえライフイノベーション総合特区 in 東京・大阪の開催（東京都、大阪府）
- ・インターフェックスジャパンの出展（東京都）
- ・医療機器メーカーと県内ものづくり企業の交流・展示会や商談会の開催
- ・三重大学が機能性食品の開発に取り組む地域企業3社と共同研究し、製品化
- ・三重大学が海外（台湾）への販路開拓支援を実施
- ・県内ものづくり企業のPR資料として企業情報集の作成
- ・鈴鹿医療科学大学シーズ集の作成 等



三重ものづくり企業と医療機器メーカーとの交流・展示会 in 本郷(東京都)



日本GEと三重県内企業との技術交流・商談会

ク 共同研究の促進

大学や企業等による共同研究を促進するため、国等の研究プロジェクトへの応募や競争的研究資金の獲得をめざした支援を実施するとともに、獲得後の円滑な事業運営に向けた支援を行いました。

【大学等、医療機関、企業】

主な取組

【大学等、医療機関、企業】

- ・民間企業との共同研究の実施（三重大学・鈴鹿医療科学大学）
- ・「産学連携評価モデル・拠点モデル実証事業」（経済産業省）の採択（三重大学）
- ・医農福連携による介護食の開発に向けた県内食品メーカーと医療機関等による共同研究の実施



井村屋(株)が開発した高カロリー豆腐を使った伊賀市立上野総合市民病院(MieLIP伊賀)での臨床試験の実施

ケ 産学官民参加型研究会の開催

新たな製品をめざし研究開発を促進するため、医療・健康・福祉分野の産学官民参加型の研究会を開催しました。

【MieLIP、大学等、企業】

主な取組

- ・福祉用具・ものづくり研究会
- ・ロボット研究会
- ・病態薬学研究会
- ・腫瘍薬学研究会
- ・健康社会を支える食品研究会
- ・薬事研究会（医薬品等品質管理研究会、微生物研究会、GMP・法規研究会）
- ・医療機器・福祉機器開発研究会（鋼製小物研究会）
- ・医薬品・食品等機能性素材開発研究会
- ・医薬品メーカー等と高校との連携による化粧品、健康茶の開発をめざした研究会
- ・自転車を活用した健康増進プログラムの開発研究会
- ・鳥羽オリジナル化粧品の開発をめざした研究会
- ・海岸ウォーキングによるリラクゼーション効果を生かした旅行商品の開発研究会
- ・尾鷲セラピストによる熊野古道・健康ウォーキングツアーの開発研究会 等



自転車を活用した健康増進プログラムの開発（MieLIP 多気）



海岸ウォーキングによるリラクゼーション効果を生かした旅行商品の開発（MieLIP 鳥羽）



尾鷲セラピストによる熊野古道・健康ウォーキングツアーの開発（MieLIP 尾鷲）

コ 日本薬膳学会の創設

日本における薬膳の普及に伴い、薬膳の充実や日本版薬膳の確立に向けて医師、薬剤師、管理栄養士など様々な職種と連携し、東洋と西洋の医学を融合した世界初の新しい薬膳を創出するため、鈴鹿医療科学大学内に一般社団法人日本薬膳学会が創設されました。

【大学等、企業】

③ 基本方向3「みえライフイノベーションの推進」の取組と成果

ア 地域活性化総合特区「みえライフイノベーション総合特区」の指定

第3期実施計画において特に注力する「みえライフイノベーションの推進」について、国による規制緩和の特例や財政的支援制度等を活用しながら画期的な医薬品・医療機器等の創出を推進するため、平成24年7月、国から地域活性化総合特区「みえライフイノベーション総合特区」の指定を受けるとともに、特区計画の認定を受けました。

- ・総合特区計画の指定時期及び認定時期

平成24年7月25日 特区指定

平成24年11月30日 特区計画認定（平成25年9月2日最終変更）

- ・計画期間

平成24年度～28年度

○特区計画の事業目標及び進捗状況

評価指標	数値目標（H28）	実績（H26）及び進捗度*
統合型医療情報データベースの規模	30万人分	構築中
医療・福祉現場ニーズの収集件数	2,000件	1,519件 進捗度 127%
医薬品生産金額	184,118百万円 (H22比50%増)	108,338百万円 進捗度 77%
医療機器生産金額	6,972百万円 (H22比100%増)	4,107百万円 進捗度 95%
MieLIP活用機関数（県内）	50機関	80機関 進捗度 267%
MieLIP活用機関数（県外）	30機関	58機関 進捗度 322%
医療・健康・福祉分野企業（第2創業を含む。）及び研究機関の立地件数	50件	32件 進捗度 107%

*進捗度は各年度の数値目標に対する達成状況を表す。

○内閣府による事後評価（平成26年度）

	評価点（5点満点）
①目標に向けた取組の進捗に関する評価	4.3
②支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価	3.5
③総合評価	3.6
評価結果	3.8

※参考：地域活性化総合特区・ライフイノベーション分野 全国14特区中5位
（前年度12特区中5位）

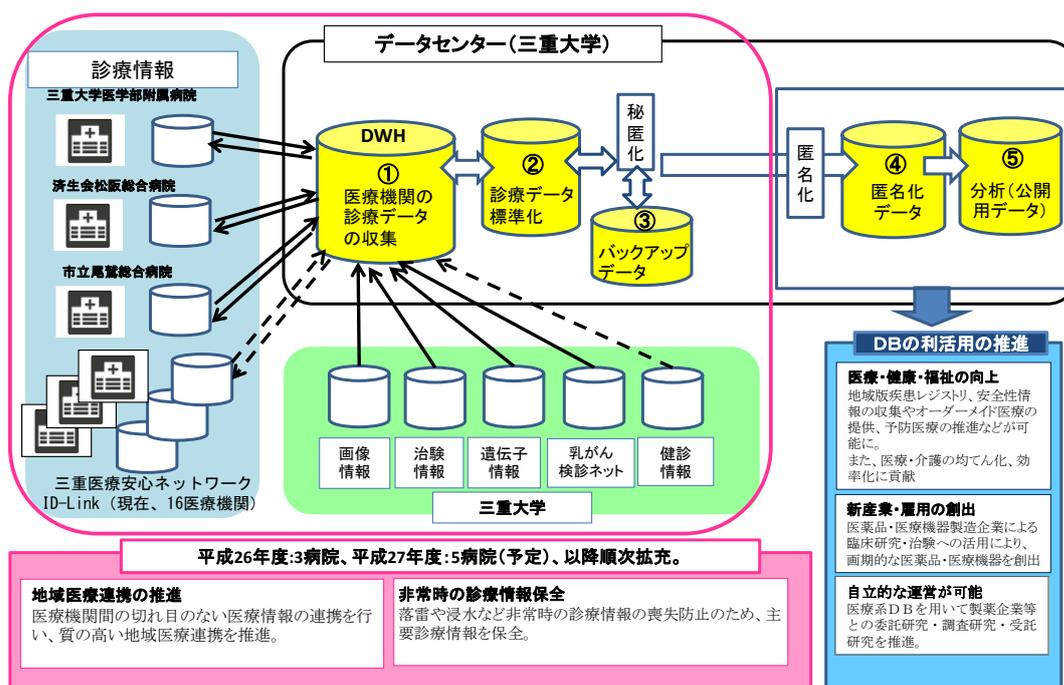
イ 統合型医療情報データベースの整備

医療の高度化や均てん化の推進、災害時の医療情報の保全等を目的として、県内医療機関に整備されている医療系ネットワークを活用し、患者の医療情報（病名、検査値、薬剤等）を収集し、分析を行う「統合型医療情報データベース」（以下、医療情報DB）について、三重大学医学部附属病院を事業主体として平成 26 年度からシステムの整備と医療情報収集に向けた取組が開始されました。

県内 8 医療機関の参加に向けた基盤整備や医療データの標準化作業が進められており、医療のビッグデータを活用した画期的な医薬品や医療機器等の開発をめざして、医療情報DBを活用した企業等との共同研究や他の医療データベースとの連携などの取組が予定されています。

【大学等、医療機関、行政】

○統合型医療情報データベースの概要



ウ 研究開発支援拠点「みえライフイノベーション推進センター（以下、MieLIP）」の開設

企業等の製品開発を支援する拠点として、平成25年9月に研究開発支援拠点「みえライフイノベーション推進センター（MieLIP）＊」を県内7箇所に開設しました。

現在、各拠点の運営主体が特色を生かした製品やサービスの開発に向けて自立的な取組を行っており、製品化事例が生まれています。

【MieLIP】

＊MieLIP 拠点

セントラル（三重大学内）、鈴鹿（鈴鹿医療科学大学内）、津（三重県工業研究所内）、伊賀（三重大学伊賀研究拠点内）、多気（多気町役場内）、鳥羽（鳥羽市役所内）、尾鷲（尾鷲市役所内）



主な取組

○MieLIP セントラル（三重大学内）

- ・大学研究者と国内外研究機関・企業等とのコーディネート、製品化支援
- ・海外市場への販路開拓に向けた企業間マッチング等の支援
- ・県内医療機関と連携した「みえ治験医療ネットワーク」の推進
- ・統合型医療情報データベースの構築 等

○MieLIP 鈴鹿

- ・CYBERDYNE(株)のロボットスーツHALを活用したリハビリテーション施設

「鈴鹿ロボケアセンター」の開設

- ・ 鈴鹿産ハナビラタケを原料として医薬品メーカーと鈴鹿医療科学大学が共同研究を実施したスキンケアクリーム「クロシエットフルール」の製品化 等

○MieLIP 津

- ・ 医療・福祉現場ニーズと県内ものづくり企業とのマッチングや製品化に向けた技術的支援や新規参入支援
- ・ 食の機能性素材や機能性食品の開発支援 等

○MieLIP 伊賀

- ・ 伊賀市立上野総合病院と食品メーカーが連携した高齢者向け高カロリー豆腐の開発等

○MieLIP 多気

- ・ 自転車を活用した健康増進プログラムの開発
- ・ 複合健康リゾート施設の整備に向けた産官学民のメンバーによる会議の開催
- ・ 高校生と製薬企業の共同による乳液、ボディスキンケアジェル、シャンプー、トリートメントの製品化 等

○MieLIP 鳥羽

- ・ 鳥羽の海洋資源を活用したボディスキンケアジェル「パールプリンセス」の製品化
- ・ 海岸ウォーキングによるリラクゼーション効果を生かした旅行商品の開発 等

○MieLIP 尾鷲

- ・ 尾鷲セラピストによる熊野古道・健康ウォーキングツアーの開発

エ 総合特区支援利子補給金の活用

特区計画の推進に資する事業を実施する事業者が指定金融機関からの融資により資金調達を行う場合に、事業者の金利負担の軽減を図ることで円滑な事業実施を支援する総合特区支援利子補給金(利子補給率:0.7%以内)について、事業者や金融機関に対する制度の利用啓発や利子補給に必要な国への事業者推薦を行いました。

【企業、金融機関、行政】

- ・ 推薦案件数(平成28年2月現在) 累計7件

オ 規制緩和の特例に向けた協議

総合特区制度に基づく特区内での規制緩和の特例措置の実現に向けて、各種の要望を行いました。

【大学等、企業、行政】

要望を行った結果、全国展開ながら規制緩和が実現された項目

- ・ 複数医療機関が参加した治験における倫理審査の集約化
- ・ 医療機器製造販売業の総括販売責任者及び医療機器製造業の責任技術者の資格要

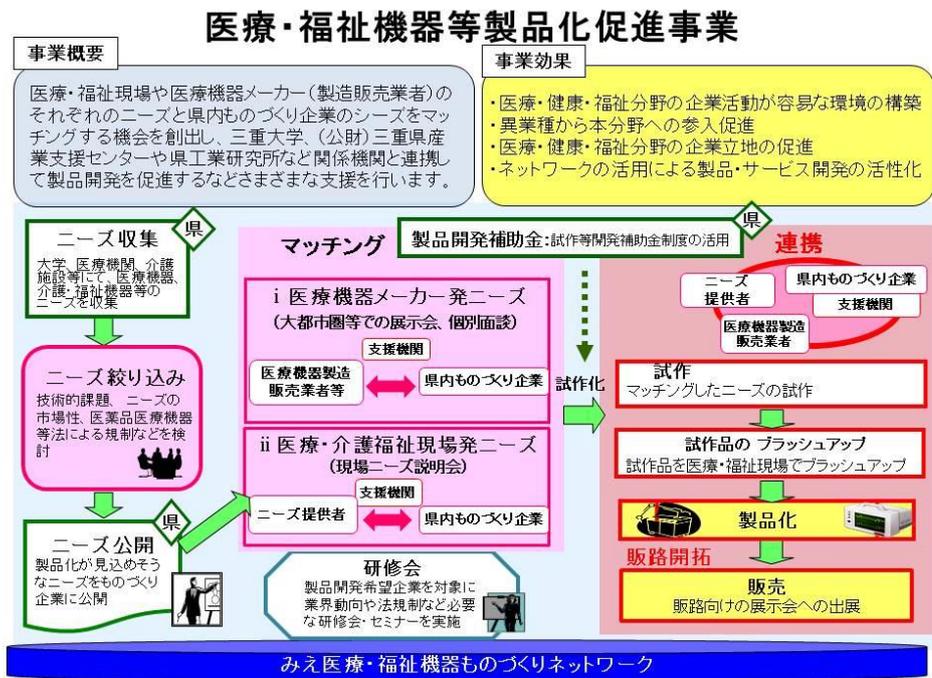
件の緩和

- ・研究開発税制における総額型の恒久措置化
- ・医療機器製造販売業における国内品質業務運営責任者の資格要件の緩和 等

カ 医療・福祉機器等の研究開発・実用化の促進

県内ものづくり企業の医療・健康・福祉産業への参入や製品化を促進するため、医療・福祉現場や医療機器メーカー等のそれぞれのニーズを収集し、大学や（公財）三重県産業支援センター、三重県工業研究所等が連携して、県内ものづくり企業のシーズとマッチングし、製品化につなげる取組を進めるとともに、県内ものづくり企業のネットワークを構築しました。

【大学等、企業、医療・福祉機関、経済団体、行政】



○「みえ医療・福祉機器ものづくりネットワーク」の創設

高度なものづくり技術を持つ県内ものづくり企業の医療・健康・福祉分野への参入を促進し、医療・福祉機器等の製品開発につなげるため、県内ものづくり企業等を対象とした「みえ医療・福祉機器ものづくりネットワーク」を創設しました。

ネットワーク会員企業に向けて、商談会や財政的支援制度の案内などの情報提供の実施や、医療・福祉現場ニーズ等を基にしたものづくりに対する三重県産業支援センター、県工業研究所等が連携した支援体制の構築やマッチングの実施等を行っています。

・会員数（平成 28 年 2 月現在） 企業 78 社、支援機関 7 機関

○医療・福祉機器等の開発支援

医療・福祉現場のニーズ収集や医療機器メーカーと県内ものづくり企業とのマッチング、試作品・製品開発に関する技術的・財政的支援、販路開拓支援等を行いました。

医療機器メーカー発マッチングの成果（H24～H27）

	マッチング件数	製品開発取組数	製品化数
医療機器メーカー発マッチング	197件	11件	5件

医療・福祉現場ニーズ発マッチングの成果（H24～H27）

	収集ニーズ	公開ニーズ	製品開発取組数	製品化数
医療・福祉現場ニーズ発マッチング	2,072件	50件	19件	11件

主な製品事例



点滴スタンド「カチャっと君」
（三重金属工業（株））



頸部超音波栓子検出装置
（橋本電子工業（株））



急性期冷却剤「アイシングフィットG」
（三重化学工業（株））

キ 地域資源活用型医薬品等の開発促進

県内の天然資源や薬用植物等を有効活用した付加価値の高い医薬品、医薬部外品、化粧品等の製品開発を促進するため、開発に意欲的な事業者への財政的支援や販路開拓支援、薬用植物の試験栽培等を行いました。

【大学等、企業、団体、行政】

主な製品事例



「まごころボディジェル姫(ひめ)」
(万協製薬㈱、相可高校)



ボディスキンケアアジェル「パールプリンセス」
(鳥羽商工会議所、御木本製薬株式会社)

ク 付加価値の高い食品等の開発促進

生活習慣病予防や医療・介護現場で必要とされる食品など付加価値の高い食品開発を促進するため、開発に意欲的な事業者への財政的支援や販路開拓支援、食品メーカーと医療機関による共同研究の実施に向けた支援を行いました。

また、27年4月からスタートした「機能性表示食品制度」を活用した食品の開発支援として、県内大学や試験研究機関等と連携した相談窓口の開設や同制度の消費者庁への届出を希望する企業等への支援を行いました。

【大学等、企業、団体、医療機関、行政】

主な製品事例



医療現場ニーズを反映した高齢者向け
介護・栄養食品(井村屋㈱)



糖質制限が必要な方が気軽に食べら
れるパン・スイーツ(㈱ウェルフード)

ケ 健康増進プログラム等の開発の促進

科学的根拠に基づいた健康増進プログラムの開発と県民が健康増進に取り組むための動機付け及びその持続を促す方法を確立し、関連機器・サービスの開発や普及のしくみを構築して、新たな健康関連サービス産業を創出させるため、企業が開発した健康管理・生活支援サービスについて導入

効果や市場性等を検討する実証事業の支援を行いました。

また、健康長寿の社会づくりをめざして健康住宅に関する様々な研究等を行うため、産官学民による「みえ健康住宅産業振興フォーラム」の設置や木材を活用した健康住宅の実証研究に取り組みました。

【大学等、企業、団体、行政】

主な取組事例

- ・タブレットを活用した健康管理・生活支援サービスの実証事業の実施（㈱シャープ、亀山市等）
- ・みえ健康住宅産業振興フォーラムの設置 等



タブレットを活用した健康管理・生活支援サービスの
実証事業（㈱シャープ、亀山市等）

コ 地域版次世代ヘルスケア産業協議会の設置

「日本再興戦略」で位置づけられた健康寿命延伸産業の育成に向けて、産業創出に向けた課題と解決策を検討する機関として国が各地域に「地域版次世代ヘルスケア産業協議会」の設置を呼び掛けています。本県では「みえライフイノベーション総合特区地域協議会」を当該会議として位置づけ、同産業の育成に向けた課題と解決策の検討や企業が行う実証事業に対する意見・協力等を行いました。

【大学等、関係団体、企業、経済団体、金融機関、行政】

④ 基本方向4「情報発信・収集の充実」の取組と成果

ア 総合的な情報の発信

メディカルバレープロジェクトの概要や先駆取組事例、製品やサービスなどの成果等について、メディカルバレー通信、みえライフイノベーションNEWS、ホームページ及びメールマガジンなどの媒体や展示会、セミナーを活用した情報発信を行いました。

【大学等、企業、行政】

イ 国内・海外との連携交流、情報収集

国内外の自治体、企業との連携やコンソーシアムの形成を図るため、国内で開催される学会・展示会への参加や先進的な取組を行う国内外の自治体の情報収集、企業や自治体等の視察受け入れなどを実施し、情報交換を行いました。

【大学等、企業、行政】

○国内

・岐阜県、広島県との医療・福祉機器開発に向けた連携取組

首都圏及び関西圏における展示会への3県共同出展を行いました。その中で、出展企業同士（三重県企業と岐阜県企業）の共同研究も始まりました。また、広島県が実施する「福祉用具・介護ロボット実証・実用化フィールド事業」へ三重県企業3社が参画し、県内で開催された「福祉用具フォーラム」に広島県、岐阜県企業が出展されました。



岐阜県・三重県医療福祉機器等開発連携
会議



(株)タナック(岐阜県)と三重化学工
業(株)(三重県)との共同研究

- ・中部圏のヘルスケア産業振興を目的としたネットワークへの参画
- ・地域治験ネットワーク会議への参画 等

○国外

・台湾

政府機関、研究機関、経済団体、台湾企業との関係構築と日台産業連携と県産品の輸出拡大をめざすため、知事を団長とするミッション団を派遣し、T J P O（台日産業連携推進オフィス）と三重県の「産業連携に関する覚書（MOU）」を締結しました（平成24年7月）。また、T J P Oと三重県の産業連携推進プランへ署名を行いました（平成26年11月）。

これらを機に、日台企業の連携による医療関連機器の共同開発や医薬品、化粧品受託設計・製造・販売が取り組まれています。



産業連携に関する覚書(MOU)締結



TJPOと三重県の産業連携推進
プランへの署名



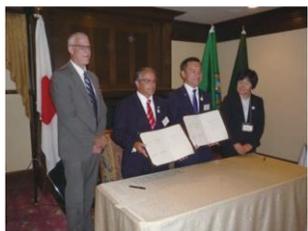
卓上型透視検査装置の共同開発(株中部メ
ディカル・和鑫生技開発有限公司)

・アメリカ

世界最大の市場である北米の企業や研究機関との交流・連携を進めるため、知事を団長とするミッション団を派遣し、ワシントン州政府と県との間で産業連携としては日本初となるMOUの締結や、WBBA* (ワシントン州バイオテクノロジー&バイオメディカル協会、現LSW: ライフサイエンスワシントンに改称) に対して本県が取り組む統合型医療情報データベースや治験医療ネットワーク等の活用に向けたトップセールスを行いました(平成26年8月)。

また、28年3月には、今後の連携の可能性の調査を行うために、ワシントン州を訪問し、LSW及びバイオ系、医療機器メーカーのニーズ等の情報収集と県の具体的取組や県内企業の情報提供など意見交換を行いました。

*ライフサイエンス分野の産業振興を目的に設立された産学官支援団体



ワシントン州政府とのMOU締結



テキサス州サンアントニオ市とのMOU締結

このほか、ブラジル、韓国、インドネシア、スイス、イタリア等との連携可能性調査等を行いました。

Ⅱ みえメディカルバレー構想第4期実施計画

1 現状と課題

(1) 国の動き

人口の高齢化に伴う生活者ニーズの多様化、成熟化等により、人々の健康・予防意識が高まり、健康寿命の延伸に貢献するヘルスケア産業の成長が期待されています。

国の成長戦略である「日本再興戦略」では、グローバル市場の成長が期待でき、一定の戦略分野が見込めるテーマとして、国民の「健康寿命」の延伸（健康関連市場の創造）を掲げており、成長性が高いヘルスケア産業の活性化・生産性の向上によって、同産業を地域経済の牽引役となる産業として育てあげていかなければならないとしています。

また、新たな時代を迎え、IoTやビッグデータ、AI（人工知能）、ロボットを最大限に活用し、新たな付加価値と生活の質の向上をもたらす第4次産業革命の推進による新ビジネスの創出に向けた検討が行われています。

(2) 三重県の産業構造およびヘルスケア産業の位置づけ

本県の産業構造は、輸送用機械、電気・電子、石油化学を中心とする業種が全体の約66%を占めています。これらの業種は景気の動向に連動しており、世界経済の変化に影響を受けやすいものとなっています。平成20年秋のリーマンショックでは、本県産業に多大な打撃を受けました。

このため、今後の資源・環境・人口減少などの成長制約や経済のグローバル化など国内外の情勢変化を踏まえ、特定の業種に過度に偏らない強じんて多様な産業構造の構築に注力していく必要があります。

このような背景を受け、本県では平成24年7月に地域の成長戦略として「みえ産業振興戦略」を策定し、その中で、本県の産業集積を活かした社会的問題解決型の成長産業の一つとしてヘルスケア産業を位置づけ、高齢化の進展や健康志向の高まりに伴う景気変動の影響を受けにくい産業としてその成長に大きな期待が寄せられています。

(3) 三重県のヘルスケア産業の現状

本県の医薬品の生産金額は108,232百万円（平成26年）となっており、全国19位と中位に位置しています。これまで、みえメディカルバレープロジェクトにおいて、薬事関連企業の県内への立地促進や県内大学の薬学部設置等の取組により、事業環境整備に取り組んできました。しかし、医薬品や化粧品等の分野を取り巻く環境は、グローバル化の進展や国際競争の激化、ジェネリック医

薬品の推進、人々の生活様式の多様化など大きな変化に晒されており、こうした変化に的確に対応した製品開発を推進することにより同分野のさらなる活性化を図ることが必要となっています。

また、医療機器については生産金額が 4,139 百万円（平成 26 年）となっており、全国 38 位と下位に位置しています。みえメディカルバレープロジェクトでは、医療・福祉現場ニーズの収集と県内ものづくり企業とのマッチングや医療機器製造販売業者とのマッチング、試作品や製品に向けた技術的支援など医療機器開発につながる取組を行なっています。県民一人あたり製造品出荷額が全国第 1 位を誇り、高度なものづくり技術を持つ中小企業等が多数存在している本県のポテンシャルから考えると、その技術を医療機器の開発に活用することにより医療機器分野の成長余力は十分あると考えられます。

さらに、人口減少や高齢化の進展に伴い、人々の健康・予防意識の高まりや行政、地域、家族が担ってきた役割の外部化などこれまで予想しなかった新たな健康需要が発生しています。特に人口減少や高齢化が急速に進む県南部地域では、地域における集落機能の維持が困難となっており、今後、日本各地で発生が予想される社会的課題が先行して発生しています。こうした社会的課題に対して行政のみならず企業等が有する技術やサービスを活用することにより、課題の解決と新たな製品やサービスの創出の両面による地域活性化が期待されています。

（４）これまでのみえメディカルバレー構想に基づく取組の成果

本県では、ヘルスケア産業の振興策として「みえメディカルバレー構想」に基づく「みえメディカルバレープロジェクト」の取組を平成 14 年度から展開しており、これまでに県内大学、企業、行政等が連携してヘルスケア産業の振興に必要な事業環境整備や製品やサービスの創出に取り組んできました。

平成 24 年度から 27 年度までの第 3 期実施計画では、新しい技術や考え方を取り入れて革新的な医薬品・医療機器等の開発をめざす「ライフイノベーションの推進」に注力することとし、平成 24 年 7 月には、国から「みえライフイノベーション総合特区」の指定を受け、特区制度の支援策等を活用しながら取組を進めてきました。特区の取組により、県内医療機関の医療データを集約・分析し医療のビッグデータとして医薬品などの開発につなげる医療情報 DB の構築着手や、製品やサービス開発を支援する拠点として県内 7 箇所 MieLIP を開設し、ロボットスーツ HAL を活用したりハビリテーション施設の設置や海洋資源を活用した化粧品、医療機関と連携した食品の開発の取組が県内各地で行われています。

第 1 期から第 3 期までのみえメディカルバレープロジェクトの取組を通じて、

治験ネットワークをはじめとする医療連携、大学や工業研究所などによる研究開発支援体制、薬学部設置等による専門人材の育成、県内企業が持つ高度なものづくり技術など、ヘルスケア産業の製品開発に必要な支援基盤や産学官民の連携体制を構築してきました。これら製品やサービス開発を推進する支援機能を総称した「みえライフイノベーションハブ」を企業等が活用することにより、製品やサービスが生み出されてきています。

(5) 経済波及効果

24年度からの4年間の取組の経済波及効果について、三重県地域間産業連関表(36部門表)により経済波及効果を算定したところ以下のとおりとなり、大きな効果が得られていることが分かります。

本事業による経済波及効果 24年度から27年度 (億円)

直接効果	264.7
1次間接波及効果	152.8
2次間接波及効果	136.5
計	554.1

上記のうち三重県内への経済波及効果 (億円)

直接効果	252.2
1次間接波及効果	39.8
2次間接波及効果	53.6
計	345.6

(参考) 雇用創出効果 (人)

全国	4,366
うち三重県	3,171

(6) 取組を進めるなかで明らかとなった課題

第3期までの取組の結果、多くの成果が得られているところですが、これらの取組を進めるなかで、人材育成の充実や連携体制の強化、新たな健康需要への対応などの課題が明らかとなってきました。次期計画にはこれらの課題の対応策を盛り込む必要があります。

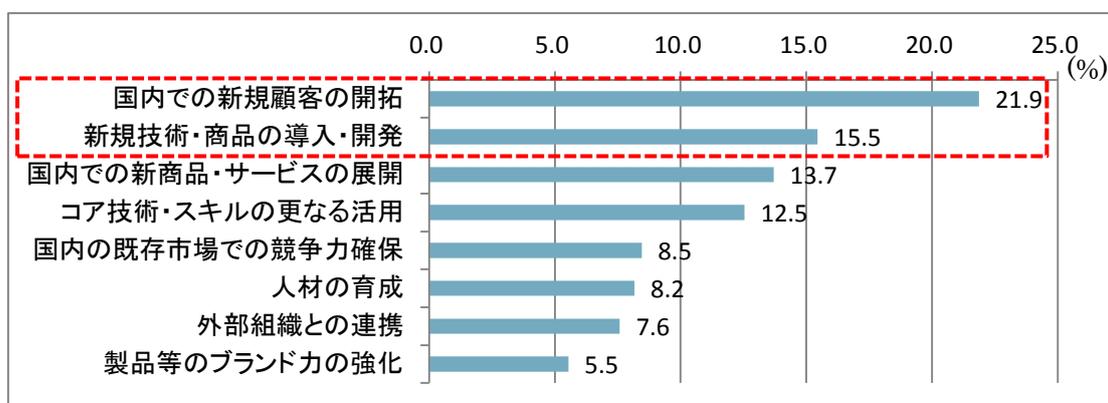
(7) 県内企業・大学等の現場のアンケート調査結果

また、県ではこれまでの取組成果や社会情勢の変化等を勘案し、ヘルスケア産業の振興に向けた新たな実施計画を策定するにあたり、現場からの生の声を計画に反映するため、県内企業325社と大学等を対象にヒアリングやアンケート調査を実施しました。その結果は以下のとおりです。

① 県内企業へのアンケート調査結果

○ 重点的に取り組みたい企業戦略について

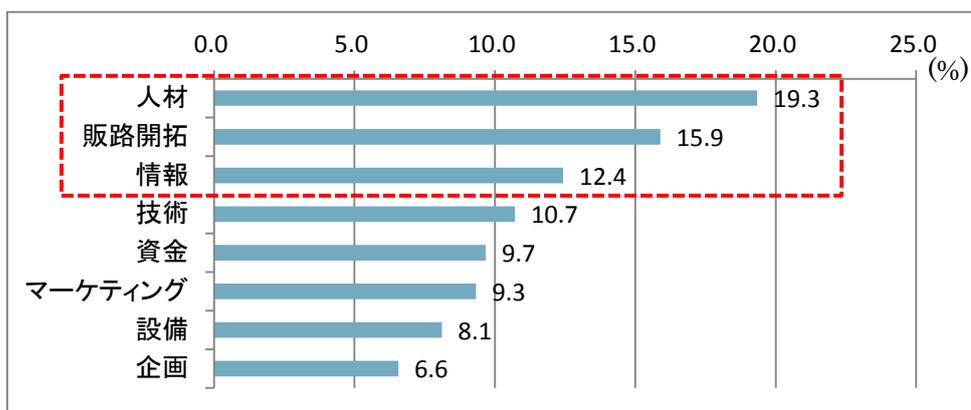
重点的に取り組みたい医療・健康・福祉分野に関する企業戦略を尋ねたところ「新規顧客の開拓（販路開拓）」、「新規技術・商品の導入・開発」が上位を占めました。



(複数回答) (※有効回答のうち5%以上を抜粋)

○ 不足している経営資源について

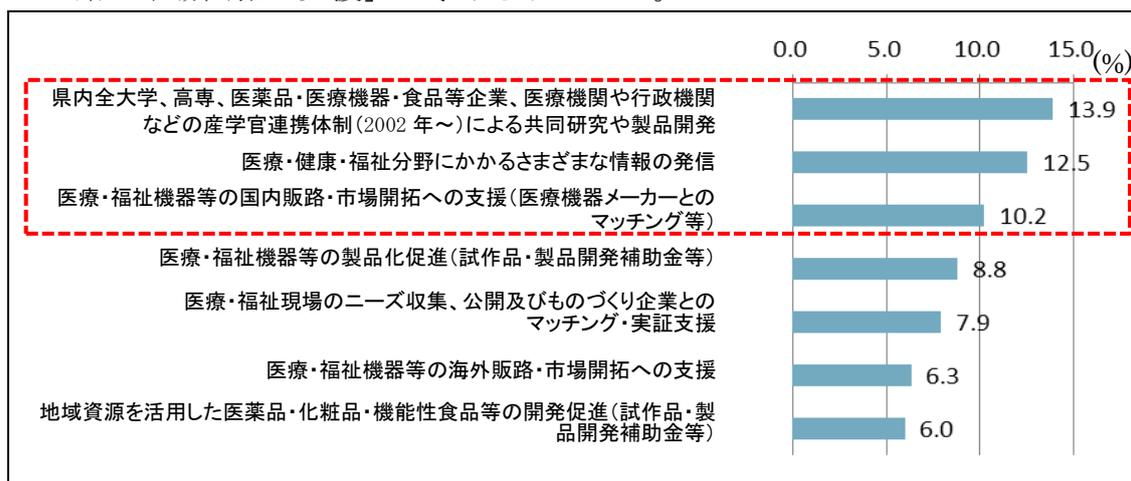
事業課題や戦略に取り組むうえで不足或いは補完すべきものとして「人材」、「販路開拓」、「情報」の3項目で5割近くを占めました。



(複数回答) (※有効回答のうち 5%以上を抜粋)

○みえメディカルバレー構想の取組で、今後重要であり、強化してほしい取組について

上位から「産学官連携体制による共同研究や製品開発」、「情報発信」、「販路・市場開拓の支援」が挙げられました。



(複数回答) (※有効回答のうち 5%以上を抜粋)

②大学等へのヒアリング結果

大学や高等専門学校へのヒアリング結果から以下の課題があることが明らかとなりました。

- 地域の企業で活躍したり、地域課題を解決できる人材が不十分
- ネットワークの活動が県内で留まっていたり、大きな発展が望めない。
グローバルな視野で国内外のネットワークを強化すべき
- 企業が開発した製品・サービスの市場性を把握するため、大学病院をはじめとした医療機関や福祉施設等を活用することが必要

- 大学等の人材や研究シーズを提供するなど地域貢献に活用する仕組が不十分
- 大学等と企業の共同研究を増加させるため、大学等の研究シーズを県内外企業に周知徹底することが必要
- ベンチャー・産業支援ファンドの活用など産学官民が連携した起業支援が必要
- 企業の製品等を効果的にPRするため、大学等が行う学会等を活用すべき
- 社会情勢の変化への対応や企業ニーズを大学等が的確に把握できる機会が必要
- 大学等と企業が連携するなかで、地域の食材やビッグデータ等のポテンシャルを活用した製品・サービスを開発する仕組の強化が必要

(8) 3つの課題

上述の(6)取組を進めるなかで明らかとなった課題、(7)県内企業・大学等の現場のアンケート調査結果から、以下のとおり3つの課題が明らかとなってきました。

- 県内企業の製品・サービス開発や国内外企業や大学、研究機関等との連携による共同研究への支援、販路確保のための機会創出、情報発信など総合的に支援できる連携体制や人材、事業環境を充実し強化することが必要です。
- ヘルスケア産業を支える医薬品や化粧品、医療機器、機能性食品について、コア技術を更に革新し、付加価値の高い製品開発や販路拡大等の競争力の強化が必要です。
- 高齢化等の進展に伴う健康・予防意識の高まりや新たな健康需要に対して、大学等や企業が有するシーズ、地域資源、ICT技術等を活用し、三重県発の新たな製品やサービスを創出することが必要です。

2 第4期実施計画のめざす姿

平成28年度から31年度までの4年間における第4期実施計画では、これまでのメディカルバレープロジェクトによる取組成果や社会情勢の変化、関係機関の声を踏まえるとともに、現在、国が検討している総合特区制度の見直しに伴う「みえライフイノベーション総合特区」の次期計画を見据え、第4期実施計画をメディカルバレー構想の「開花期」として位置づけ、本県のヘルスケア産業を基幹産業として成長させるため、みえライフイノベーション

ハブを最大限に活かした攻めの取組を展開することとします。

このため、めざす姿を「みえヘルスケアインダストリー4.0」と称して取組を進めます。

めざす姿：みえヘルスケアインダストリー4.0※

高齢化に伴う多様な健康需要に対して、本県が持つ高度なものづくり技術や人材など地域が保有する豊富な資源、産学官民金連携の支援基盤等の強みを発揮し、ライフイノベーションを推進することにより、ヘルスケア分野の優れた製品・サービスが創出され、県民の豊かさに貢献しています。

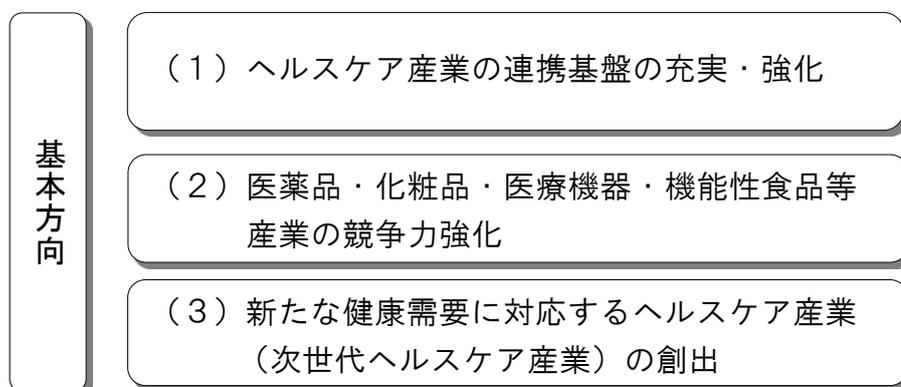
※ 「みえヘルスケアインダストリー4.0」とは、産業の大きな変革の時期を迎え、みえメディカルバレー構想第4期実施計画を着実に推進することで、第4次産業革命にも対応しつつ、メディカルバレーの取組を開花させるイメージを表現したものです。

3 実施期間

第4期実施計画の実施期間は、平成28年度から31年度の4年間とします。

4 基本方向

上述の(8)3つの課題への対応を踏まえて、第4期実施計画では、めざす姿の実現に向けて次の基本方向により展開します。



みえメディカルバレー構想第4期実施計画(開花期)イメージ

めざす姿

“みえヘルスケアインダストリー4.0”

産業の大きな変革の時期を迎え、みえメディカルバレー構想第4期実施計画を着実に推進することで、第4次産業革命にも対応しつつ、メディカルバレーの取組を開花させるイメージを表現したものです。

高齢化に伴う多様な健康需要に対して、本県が持つ高度なものづくり技術や人材など地域が保有する豊富な資源、産学官民金連携の支援基盤の強みを発揮し、ライフイノベーションを推進することにより、ヘルスケア分野の優れた製品・サービスが創出され、県民の豊かさに貢献しています。



5 基本方向の具体的取組

(1) ヘルスケア産業の連携基盤の充実・強化

三重県から世界に発信するヘルスケア分野の製品やサービスを創出するため、その開発に寄与する実証環境の整備や MieLIP の取組促進、国内外企業、研究機関等とのネットワーク拡充など事業環境の充実・強化を図ります。

また、社会環境の変化に対して的確に対応するため、研究開発支援体制や取組に対する評価体制を充実します。

①総合的な情報の発信

国内外にみえメディカルバレープロジェクトの取組を普及啓発するために、さまざまな機関・団体、行政等が保有する媒体や展示会、学会等の場を活用し総合的に情報発信を行います。

【大学等、関係団体、企業、経済団体、金融機関、行政】

○さまざまな媒体を用いた情報の発信

県民や事業者にみえメディカルバレープロジェクトの取組を広く知ってもらうとともに、企業等が開発した新商品の販路拡大や新サービスの周知・定着に結び付けるため、各実施主体が保有するホームページやメールマガジン、販売チャンネル、パンフレット等さまざまな媒体を活用し情報の発信を行います。

【大学等、関係団体、企業、経済団体、金融機関、行政】

○展示会等の積極的活用

国内外にみえメディカルバレープロジェクトの取組を普及啓発するために、展示会、学会等の場を積極的に活用し、取組をアピールしていきます。

【大学等、関係団体、企業、経済団体、金融機関、行政】

○市民講座等の開催

県民や事業者健康・医療・福祉分野の動向、最新情報などを知ってもらうために市民講座等を開催します。

【大学等】

②【新】県内医療・福祉機関等が参画した実証フィールド体制の構築

企業が新たなサービスや試作品の検証、製品のブラッシュアップ等を行う

ことができるように、県内の医療機関や福祉機関が主体となり検証等が可能な場の提供体制（実証フィールド体制）を構築します。

また、これらの実証の場に地域住民が積極的に参加でき、健康づくりにも資するようなしくみを検討します。

【医療・福祉機関、関係団体、大学等、行政】

③【拡充】医療・福祉現場等ニーズ収集の取組促進

ヘルスケア分野の製品やサービス開発の起点となる医療・福祉現場等のニーズについて、医療の効率性、利便性の向上や看護・介護負担の軽減、増加する認知症・生活習慣病等疾病対策、予防・健康管理に関するニーズ等を広く収集するとともに、市場性等を勘案した専門家による目利きの実施などにより、質・量両面の充実を図ります。 【医療・福祉機関、大学等、行政】

④みえ医療・福祉機器ものづくりネットワークの機能充実

ヘルスケア産業への参入を促し、医療・福祉機器の製品開発につなげるため、県内ものづくり企業等を対象にした「みえ医療・福祉機器ものづくりネットワーク」への参画を促進するとともに、ものづくりに取り組む体制やマッチング機能の充実を図ります。

【行政、大学等、経済団体、企業】

⑤【拡充】「みえライフイノベーション推進センター（MieLIP）」等の機能充実と取組の促進

ヘルスケア分野の製品やサービスの開発を促進するため、県内7か所に設置されたMieLIP等が核となり、医療情報DBや治験ネットワークなどの機能充実を図り、国内外企業や研究機関との連携を進めるとともに外部資金獲得等への支援を行います。

【大学等、行政、NPO、企業】

⑥【拡充】国内・海外連携のさらなる拡充

治験ネットワークや医療情報DBなどの県内各種ネットワークやDBと国や他地域におけるネットワーク等との連携や相互利活用を図ります。

また、岐阜県や広島県、台湾、米国などとの国内・海外連携については、企業間、研究者間のマッチングに向けた取組を推進し、さらに先進的な取組を行う国内・海外の政府、自治体の情報収集や情報交換を進めます。

【行政、大学等、企業】

⑦【拡充】産学官民金の連携基盤の充実

ヘルスケア産業に関わる県内外の産学官民金の交流を促進し、情報の共有を図るとともに、ネットワークの拡充に取り組みます。

また、メディカルバレープロジェクトの取組に対して助言・評価を行う体制について、「みえメディカルバレー推進代表者会議」や「みえメディカルバレー企画推進会議」のこれまでの構成団体に加え、取組の成長性や継続性等の目利きができる地域金融機関や県内経済団体等に参画を促し、各種プロジェクトの評価や助言等の充実に図ります。

【大学等、関係団体、企業、経済団体、金融機関、行政】

⑧【拡充】ヘルスケア産業の支援人材の発掘・育成

ヘルスケア産業の多様なニーズに対応するために、研究開発から販路開拓までの事業フェーズにおいて支援が行える新たな人材の発掘やスキルアップなどの人材育成を大学や企業等が連携して取り組みます。

【大学等、企業、経済団体、金融機関、行政】

(2) 医薬品・化粧品・医療機器・機能性食品等産業の競争力強化

医薬品や化粧品、医療機器、機能性食品等（以下、医薬品等）産業において、より高次の成長段階で活躍できるよう支援するとともに、医療ビッグデータやものづくり技術など本県が有するさまざまなポテンシャルの活用や国による規制緩和の特例、財政的支援など「みえライフイノベーション総合特区」制度の活用、国内外の企業や研究機関等との連携・誘致を促進することにより、競争力を強化し、世界に通じる革新的な製品を創出するとともに、市場の拡大を図ります。

①【拡充】医薬品等企業の成長段階に応じた支援

県内の医薬品等を製造又は販売する企業に対して、製品開発や販路開拓、国内外企業とのマッチングなど産学官民金が連携し成長段階に応じた切れ目のない支援を行います。

【行政、大学等、経済団体、金融機関、企業】

○医薬品等企業に対する継続支援

意欲ある県内企業には、引き続き MieLIP 等による研究開発や産学官民金連携体制による支援、専門人材や医療情報DBの活用など、構築された基盤（みえライフイノベーションハブ）を最大限に活用した支援を行います。

【行政、大学等、経済団体、金融機関、企業】

○新規参入や創業、第2創業企業の創出支援

高度なものづくり技術や研究開発力を持ち、ヘルスケア産業へ新規参入や創業、第2創業を行う県内企業に対して、MieLIP、(公財)三重県産業支援センターなど関係拠点や機関が連携し、ベンチャー・産業ファンドの活用など必要な支援を行います。

【行政、大学等、経済団体、金融機関、企業】

○中核企業創出支援

地域外から稼ぎ、地域内に雇用、取引をもたらす地域経済を牽引する企業(中核企業)を創出するため、成長余力があり、オンリーワンの製品開発力を持つ企業に対して、開発の促進から販路拡大、他企業とのマッチングなどの支援を行います。

【行政、大学等、経済団体、金融機関、企業】

○グローバル企業創出支援

グローバル市場で活躍する企業(グローバル企業)を創出するため、地域経済を牽引する中核企業に対し、海外展開のための事業戦略の策定や海外販路開拓支援などを行います。

【行政、大学等、経済団体、金融機関、企業】

②戦略的企業連携・誘致の促進

国内外の医薬品等メーカーと県内企業による事業連携や共同研究開発等企業連携を進めるとともに、県内への企業をはじめ大学、学部、研究部門等の誘致を戦略的に進めます。

【企業、行政、大学等、金融機関】

③【新】革新的な医薬品、戦略的医療機器及び高付加価値な機能性食品等の創出

県内の企業、大学等をはじめ、国内外の企業や大学、研究機関等が参画し、医療ビッグデータや大学等有するシーズを活用した革新的な医薬品開発を促進させる取組を行うとともに、新規性・市場性・成長性を勘案した戦略的な医療・福祉機器等の創出に向け取り組みます。

また、機能性を有した付加価値の高い食品や農林水産物を県内から創出させる取組を推進します。

【企業、大学等、医療機関、経済団体、行政】

○医療情報 DB・ICT を活用した医薬品・医療機器研究開発の取組

医療情報 DB を活用し、そのビッグデータに基づいた医療水準の高度化・均てん化に寄与する仕組や革新的な医薬品・医療機器（機器を制御するためのプログラムやソフトウェアも含む）の創出に向け取り組みます。

【企業、大学等、医療機関、経済団体、行政】

○再生医療等製品開発の取組

大学等有するシーズを活用して、国内外の医療機関や企業と連携した新たな医薬品等の創出に向け取り組みます。

【大学等、企業、医療機関】

○戦略的医療・福祉機器等研究開発の取組

海外製品の利用率が高い医療機器の日本製への転換や ICT やロボット技術など 新技術を活用した医療・福祉機器の創出に向け取り組みます。

【企業、大学等、経済団体、行政】

○食の機能性評価の取組

機能性表示食品や県内農林水産物等の機能性成分・栄養成分を生かした製品を創出するため、県内大学、試験研究機関や医療機関等が連携して、成分分析や臨床試験など食の機能性評価に関する取組を推進します。

また、機能性表示食品制度の周知や活用を図るため、企業、消費者等を対象としたセミナー開催や情報提供等を行います。

【企業、大学等、行政】

④【新】 治験ネットワークや実証フィールドの活用促進

治験ネットワークや実証フィールドが効果的に活用され、三重から国内外へ向けて、革新的な医薬品や戦略的医療機器等が創出されるために、国内外企業や大学等に実証フィールド等の基盤活用の情報提供を行います。

【行政、大学等、関係団体、企業、経済団体、金融機関】

⑤【拡充】 競争力強化に必要な人材の発掘・育成

医薬品等企業の競争力強化を図るために必要な研究開発や販路開拓が行える人材や地域経済や産業をけん引する人材の発掘や育成を、大学や企業等が連携して取り組みます。

【関係団体、経済団体、行政、大学】

○医薬品等企業に必要な人材の育成

医薬品等企業の底上げを図るために、製品開発や販路開拓などに必要な知識、技術を修得し実践できる人材を育成します。

【関係団体、経済団体、行政、大学】

○医薬品等企業のコア人材の発掘・育成

地方創生の原動力となり、地域イノベーションを推進するなど地域経済や産業をけん引するために、新たな社会課題に対し、ICTやビッグデータを活用し、医薬品等開発に必要な技術力、発想力を備える企業の中心的役割を果たすコア人材を県内外から発掘するとともに育成します。

【大学等、行政、経済団体】

○ヘルスケア分野の起業人材の発掘・育成

地域発のヘルスケア産業の創出に向けて「起業人材の育成」や「起業マインドを持った人材の発掘」など新しい価値を創造する力をもった人材を発掘・育成します。

【大学等、行政、経済団体】

(3) 新たな健康需要に対応するヘルスケア産業（次世代ヘルスケア産業）の創出

医療・介護などの公的保険サービスに加えて、潜在的な健康需要を満たす三重県発の次世代ヘルスケア産業を創出するため、企業等が有する技術、サービスや県内地域資源、ICTやビッグデータなどの活用、産学官民金で構成する「地域版次世代ヘルスケア産業協議会」との連携等により、人々の健康増進に向けた行動変容と持続的なビジネスモデルの確立につながる製品やサービスの開発や実証フィールドを活用した検証等を行います。

①【拡充】次世代ヘルスケア産業の創出

「健康寿命」の延伸に寄与する製品やサービスを創出するため、ICTを活用するとともに、ビッグデータを分析し、課題抽出を行い、これまで取り組んできた健康ツーリズム等をはじめ、新たに疾病予防、健康管理や生活支援などに関する製品やサービスの開発、実証などに取り組みます。

また、企業等が実践する「健康経営」の取組に資する製品やサービスの創出のために、さまざまな主体が連携して取り組みます。

【企業、医療・福祉機関、関係団体、大学等、経済団体、行政】

○健康寿命延伸産業の創出

「健康寿命」の延伸に寄与する製品やサービスを創出するため、企業や県内医療・福祉機関、大学、市町等が連携して、疾病予防や健康管理、健康に配慮した食品やメニュー、高齢者や障がい者の生活支援などに寄与する製品、サービスの開発や実証、観光資源を活用した健康ツーリズム、スポーツを核とした健康マネジメントなどに取り組みます。

【企業、医療・福祉機関、大学等、経済団体、行政】

○企業が行う「健康経営」に必要な製品やサービスの創出

企業等が創出をめざす従業員の健康管理を戦略的に実践する「健康経営」の取組に必要な製品やサービスの開発、実証等のために、企業、保険者、医療機関、民間事業者、市町等が連携して取り組みます。

【企業、医療・福祉機関、大学等、経済団体、行政】

②国内産薬用植物供給体制の構築と周辺産業の育成

海外からの輸入が大部分を占める医薬品原料としての薬用植物の国内産シェアを拡大するため、本県の気候や土壌等に適した薬用植物の試行栽培を行います。さらに、薬用植物を活用した薬湯や薬膳料理などの商品開発支援、大型リゾート施設等における薬用植物を活用した取り組みの支援など医薬品原料以外の用途についても取組を行います。

【企業、大学等、行政】

③健康・省エネ住宅の普及促進と関連産業の育成

一日の生活において最も滞在時間が長い空間である住宅について、住環境や建材がもたらす人体への影響を明らかにし、木材を活用した付加価値の高い健康に配慮した住宅の普及を促進、普及させるとともに、関連産業の振興のために、産学官民が連携して「みえ健康住宅産業振興フォーラム」を核とした取り組みを進めます。

【企業、医療機関、関係団体、大学等、行政】

④次世代ヘルスケア産業創出に必要な人材の発掘・育成

多様な健康需要に対応した疾病予防・健康管理等のための製品やサービスの研究開発や販路開拓に必要となる人材の発掘や育成を、大学や企業等が連携して取り組みます。

【大学等、企業、経済団体、行政】

○次世代ヘルスケア産業のコア人材の発掘・育成

地方創生の原動力となり、地域イノベーションを推進するなど地域経済や産業をけん引するために、新たな社会課題に対し、ICTやビッグデータを活用し、疾病予防や健康管理のための製品・サービス開発に必要な技術力、発想力を備える企業の中心的役割を果たすコア人材を県内外から発掘するとともに育成します。

【大学等、行政、経済団体】

○次世代ヘルスケア産業の起業人材の発掘・育成

地域発の次世代ヘルスケア産業の創出に向けて「起業人材の育成」や「起業マインドを持った人材の発掘」など新しい価値を創造する力をもった人材を発掘・育成します。

【大学等、行政、経済団体】

6 事業目標等

(1) 事業目標

第4期実施計画を実施するうえで、取組の成果を判断する指標として、次の項目を設定します。

①ヘルスケア分野の製品・サービス開発数

県内事業者等が開発したヘルスケア分野の製品・サービス件数

・平成28年度から31年度までの目標値 累計34件

(出典：三重県健康福祉部ライフイノベーション課調べ)

②新市場開拓機会創出数

県内事業者等が開発したヘルスケア分野の製品・サービスの商談件数

・平成28年度から31年度までの目標値 累計800件

(出典：三重県健康福祉部ライフイノベーション課調べ)

③治験受入件数

みえ治験医療ネットワークに登録している医療機関で、NPO法人みえ治験医療ネットを介して受け入れた治験契約数

・平成28年度から31年度までの目標値 累計100件

(出典：NPO法人みえ治験医療ネット調べ)

④医療情報DB活用数

医療情報DBのデータを活用した製品・サービス開発の取組数

・平成28年度から31年度までの目標値 累計8件

(出典：NPO法人みえ治験医療ネット調べ)

⑤実証フィールド活用件数

企業がヘルスケア分野の新たなサービスや試作品の検証、製品のブラッシュアップ等を行うために実証フィールドを活用した件数

・平成28年度から31年度までの目標値 累計20件

(出典：三重県健康福祉部ライフイノベーション課調べ)

(2) 参考指標

第4期実施計画による取組が直接的に反映されるものではありませんが、次の3項目の平成26年度値(第4期実施計画策定時点での直近実績値)に対する進捗度を取組の成果の参考とします。

①医薬品生産金額

平成26年：108,232百万円

(出典：厚生労働省 薬事工業生産動態統計調査)

②医療機器生産金額

平成26年：4,139百万円

(出典：厚生労働省 薬事工業生産動態統計調査)

③新市場開拓件数

平成26年度：28件

(出典：三重県健康福祉部ライフイノベーション課調べ)

7 評価・検証

第4期実施計画は、4年間にわたり産学官民金連携で事業展開をしていくことから、取組全体の仕組や成果について、次のように評価と検証を行っていきます。

なお、評価にあたっては、事業の結果のみを評価するのではなく、プロセスについても評価と検証を行うものとします。

(1) 年度事業計画の評価と検証

第4期実施計画に基づき毎年度作成する年度事業計画により実施した事業の結果について、評価と検証を行い、次年度事業計画に反映します。

(2) 中間評価と検証

第4期実施計画の前半2年間の事業の結果について、平成29年度に評価と検証を行います。その結果や社会情勢の変化や医療・健康・福祉産業を取り巻く動向等を踏まえ、具体的な取組内容や事業目標等について、必要に応じ見直しを行います。

(3) 4年間の評価と検証

第4期実施計画により実施した4年間の事業の結果について、平成31年度に評価と検証を行い、これを踏まえて次期実施計画を策定します。

参 考 资 料

みえメディカルバレー構想 実施計画の推移

基本理念

地域資源を有効に活用し、競争力のある医療・健康・福祉産業の振興に取り組み、活力ある地域づくりと県民の健康と福祉の向上をめざします。



【基本方向】

- 1 産学官民連携の促進
- 2 研究開発・技術開発の促進
- 3 創業・新事業創出の支援
- 4 企業誘致戦略の推進
- 5 医療・健康・福祉サービス分野の高度化と効率化
- 6 情報提供の充実
- 7 推進体制の整備
- 8 人材の確保・育成

第1期実施計画 (平成14年度～19年度) 立ち上げ期

【めざす姿】

産学官民が連携しながら、それぞれが自立的な取組みを展開するパートナーシップを維持し、そこから次々にイノベーションが生み出され、医療・健康・福祉産業が活性化されています。

【基本方向】

- 1 産学官民連携によるネットワークの充実・拡大
- 2 メディカル分野の人材の確保・育成
- 3 統合医療・予防医学を推進するための体制づくり
- 4 技術力向上・製品開発の支援
- 5 推進体制の充実

第1期で培った人的ネットワーク等を基に、基礎整備の確立を図り「みえメディカルバレー構想」実現に向けた礎を築く。

第2期で築いた基盤を活用し、様々な製品やサービスを創出すべく技術力・地域力等の充実と特区を活用したライフィノベーションの推進を図る。

【めざす姿】

県内各地域で医療・健康・福祉分野の先進的な取組が行われ、産業が活性化しています。

医療・健康・福祉分野の産学官民連携の基盤を活用し、本分野で活用される製品やサービスが次々に生み出されています。

みえメディカルバレープロジェクトで生み出された製品やサービスを県民が享受し、健康な生活を送り、福祉の充実につなげています。

【基本方向】

- 1 産学官民連携の充実
- 2 技術力・地域力の充実
- 3 みえライフィノベーションの推進
- 4 情報発信・収集の充実

総合特区
(H24.7指定～H28年度)

【めざす姿】

「みえヘルスケアインダストリー4.0」

高齢化に伴う多様な健康需要に対して、本県が持つ高度なものづくり技術や人材など地域が保有する豊富な資源、産学官民金連携の支援基盤の強みを発揮し、ライフィノベーションを推進することにより、ヘルスケア分野の優れた製品・サービスが創出され、県民の豊かさに貢献しています。

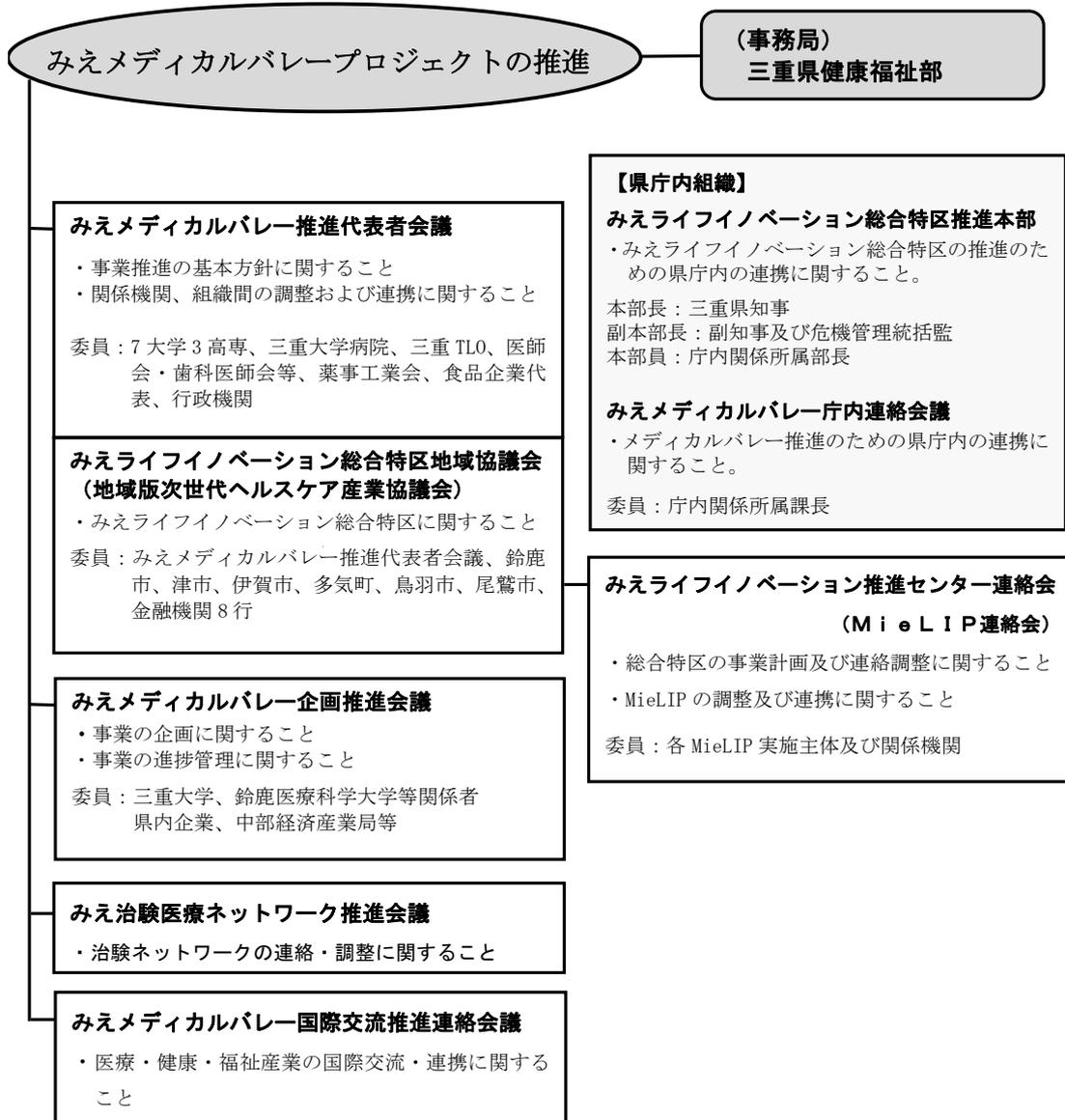
【基本方向】

- 1 ヘルスケア産業の連携基盤の充実・強化
- 2 医薬品・化粧品・医療機器・機能性食品等産業の競争力強化
- 3 新たな健康需要に対応するヘルスケア産業（次世代ヘルスケア産業）の創出

総合特区の後継事業の展開 (H29年度～)

第3期で注力したライフィノベーションの推進により構築した製品・サービスの開発基盤を基に、成長産業であるヘルスケア産業に対して、攻めの取組を行っていくために、ターゲットを絞り、具体的、戦略的な取組を進める。

みえメディカルバレープロジェクト 実施体制



みえメディカルバレー推進代表者会議委員名簿

【平成 28 年 3 月 31 日現在】

(順不同 敬称略)

区 分	氏 名	所 属 等
大 学 等	駒田 美弘	三重大学 学長
	豊田 長康	鈴鹿医療科学大学 学長
	早川 和生	三重県立看護大学 学長
	宗村 南男	四日市大学 学長
	丸山 康人	四日市看護医療大学 学長
	市野 聖治	鈴鹿大学 学長
	清水 潔	皇學館大学 学長
	新田 保次	鈴鹿工業高等専門学校 校長
	新田 保次	鳥羽商船高等専門学校 校長
	村田 圭治	近畿大学工業高等専門学校 校長
	伊藤 正明	三重大学医学部附属病院 院長
	円城寺 英夫	株式会社三重ティーエルオー 代表取締役社長
団 体 ・ 企 業	青木 重孝	公益社団法人三重県医師会 会長
	田所 泰	公益社団法人三重県歯科医師会 会長
	西井 政彦	一般社団法人三重県薬剤師会 会長
	西宮 勝子	公益社団法人三重県看護協会 会長
	田中 一彦	一般社団法人三重県作業療法士会 会長
	田山 雅敏	三重県薬事工業会 会長
	辻 保彦	食品製造企業代表 (辻製油株式会社代表取締役会長)
行 政	高木 博康	中部経済産業局地域経済部 部長
	伊藤 隆	三重県健康福祉部 部長
	廣田 恵子	三重県雇用経済部 部長
企画推進会議代表	鈴木 宏治	鈴鹿医療科学大学薬学部教授・社会連携研究センター長
顧 問	—	—

みえライフイノベーション総合特区地域協議会委員名簿

構成機関	委員
三重大学	学長
鈴鹿医療科学大学	学長
三重県立看護大学	学長
四日市大学	学長
四日市看護医療大学	学長
鈴鹿大学	学長
皇學館大学	学長
鈴鹿工業高等専門学校	校長
鳥羽商船高等専門学校	校長
近畿大学工業高等専門学校	校長
三重大学医学部附属病院	病院長
株式会社三重ティーエルオー	代表取締役
公益社団法人三重県医師会	会長
公益社団法人三重県歯科医師会	会長
社団法人三重県薬剤師会	会長
公益社団法人三重県看護協会	会長
一般社団法人三重県作業療法士会	会長
三重県薬事工業会	会長
辻製油株式会社	代表取締役
中部経済産業局地域経済部	部長
三重県健康福祉部	部長
三重県雇用経済部	部長
みえメディカルバレー企画推進会議	会長
みえメディカルバレー推進代表者会議顧問	
鈴鹿市	市長又は市長の指名する者
津市	市長又は市長の指名する者
伊賀市	市長又は市長の指名する者
鳥羽市	市長又は市長の指名する者
尾鷲市	市長又は市長の指定する者
多気町	町長又は町長の指名する者
株式会社百五銀行	代表者又は代表者の指名する者
株式会社三重銀行	代表者又は代表者の指名する者
株式会社第三銀行	代表者又は代表者の指名する者
株式会社商工組合中央金庫	代表者又は代表者の指名する者
桑名信用金庫	代表者又は代表者の指名する者
北伊勢上野信用金庫	代表者又は代表者の指名する者
三重信用金庫	代表者又は代表者の指名する者
紀北信用金庫	代表者又は代表者の指名する者

みえメディカルバレー企画推進会議委員名簿 (敬称略)【平成 28 年 3 月 31 日現在】

区分	氏名	所属等
大学等	石塚 哲朗	三重大学人文学部准教授
	西村 訓弘	三重大学大学院医学系研究科教授・副学長
	西川 政勝	三重大学医学部附属病院臨床研究開発センター教授
	湊藤 啓広	三重大学大学院医学系研究科教授
	勝崎 裕隆	三重大学大学院生物資源学研究科准教授
	富田 昌弘	三重大学大学院工学研究科教授
	矢野 賢一	三重大学大学院工学研究科教授
	松井 純	株式会社三重ティーエルオー取締役
	長村 洋一	鈴鹿医療科学大学保健衛生学部教授・副学長
	畠中 泰彦	鈴鹿医療科学大学保健衛生学部理学療法学科教授
	鈴木 宏治	鈴鹿医療科学大学薬学部教授・社会連携研究センター長
	岩島 誠	鈴鹿医療科学大学薬学部教授
	岡 良浩	四日市大学経済学部准教授
	豊島 泰子	四日市看護医療大学看護学部看護学科長・教授
	大西 範和	三重県立看護大学看護学部教授
	笠原 正嗣	皇學館大学現代日本社会学部教授
	白井 達也	鈴鹿工業高等専門学校機械工学科准教授
	山下 晃司	鳥羽商船高等専門学校電子機械工学科教授・テクノセンター長
吉川 隆	近畿大学工業高等専門学校教授・地域連携テクノセンター長	
河野 廉	名古屋大学社会貢献人材育成本部ビジネス人材育成センター特任教授	
企業等	橋本 保高	大日本住友製薬株式会社 鈴鹿工場長
	松岡 収	中外医薬生産株式会社 常務取締役
	滝 文雄	ロート製薬株式会社 上野工場長
	前山 薫	御木本製薬株式会社 取締役
	落合 穰	株式会社 中部メディカル 代表取締役社長
	大久保 勉	太陽化学株式会社 ニュートリション事業部研究開発グループリーダー
	籠谷 和弘	辻製油株式会社 開発部 第一研究室長
	伊藤 宏規	井村屋グループ株式会社 取締役兼上席執行役員 (CTO)
その他	出村 嘉朗	中部経済産業局地域経済部次世代産業課ヘルスケア産業室長
	服部 正興	株式会社百五経済研究所 取締役 地域調査部長

みえメディカルバレー構想の年表

平成14年3月まで

平成7年～9年	薬事工業関係企業20社と知事との懇談会(後の「さわやかトーク」)を開催
平成8年4月	GMP研究会設置、薬事企業向け高度化研修会などの開始
平成8年4月 ～12月	県外薬事指導所のベンチマーキング調査
平成11年3月	薬事工業技術基盤整備事業基礎調査(薬事工業振興計画)
平成12年4月	薬事工業技術サポートネットワーク事業開始
平成12年12月	薬事関連工業の安全対策と振興等に向けた公設試の機能強化、連携のあり方検討調査(薬事工業研究開発アクションプログラム)
平成13年3月	薬事関連工業の安全対策と振興等に向けたアクションプログラム検討調査
平成13年3月	三重県議会 新産業創造特別委員会委員長報告(みえメディカルバレー推進を提言)
平成13年4月	科学技術振興センター工業研究部へ医薬品研究センター設置
平成14年2月	株三重TLOが三重大学内で創業
平成14年2月	みえメディカルバレー構想策定

平成14年度(2002年度)

平成14年4月	県健康福祉部にメディカルバレー推進グループの設置
平成14年4月	みえメディカルバレー推進事業の開始
平成14年7月	みえメディカル研究会発足
平成14年7月	メディカルフォーラム in 伊賀を開催
平成14年8月	みえメディカルバレー企画推進委員会設置
平成14年9月	メディカルバレーフォーラム2002を開催
平成14年10月	みえテクノエイドセンターを三重県身体障害者総合福祉センターに設置
平成14年11月	みえメディカルバレー代表者会議設置
平成14年11月	医療・健康・福祉分野欧州派遣調査団を派遣(スウェーデン、デンマーク、ドイツ、イギリス)
平成14年12月	三重大学と尾鷲市が相互友好協力協定を締結(H23.4現在 10市2町)

平成 15 年 3 月	上野市（現伊賀市）、名張市、三重大学などにより伊賀地域産業ステージ活性化計画策定
-------------	--

平成 15 年度（2003 年度）

平成 15 年 4 月	三重大学生命科学研究支援センター設置
平成 15 年 4 月	みえ治験医療ネットワークの構築決定、みえ治験医療ネットワーク推進委員会・同ワーキンググループの設置
平成 15 年 6 月	みえメディカルバレー構想新機軸展開事業開始
平成 15 年 6 月	治験医療ネットワーク構築支援、天然資源活用型バイオ産業創出、液晶技術応用促進事業の 3 リーディングプロジェクト開始
平成 15 年 6 月	みえメディカル研究会総会を開催
平成 15 年 9 月	メディカルバレーフォーラム 2003 を開催
平成 15 年 9 月	みえメディカルバレー国際交流推進連絡会議設置
平成 15 年 10 月	ドイツ・バイオメディカル産業ミッション団（ドイツ（ベルリン、メクレンブルグ・フォアポメルン州、ブランデンブルグ州）（ジェットロ ローカル・トゥ・ローカル産業交流事業））を派遣 海外バイオクラスター（ドイツビオコンバレー*）との交流開始 *ビオコンバレー：旧東ドイツ地域に位置するメクレンブルグ・フォアポメルン州のビオコンバレーは、州政府や企業が出資したビオコンバレー社が中心となり、ロストック大学やグレイフスバルトバルド大学との連携により、医療・農業・海洋の 3 つのバイオ産業クラスター形成を目指している。2002 年には、スカンジナビア、バルト諸国、ドイツ等の 12 カ国が参加するバイオクラスターネットワークにも参画している。
平成 15 年 11 月	津市サイエンスシティ（工業団地）が複合型産業集積特区認定
平成 15 年 11 月	NPO 法人みえ治験医療ネット設立
平成 16 年 1 月	みえ新産業創造ファンド設立
平成 16 年 3 月	三重大学キャンパスインキュベータ竣工
平成 16 年 3 月	鈴鹿市が NTT 跡地利用転換計画（健康・福祉サイエンスパーク）策定

平成 16 年度（2004 年度）

平成 16 年 4 月	三重大学が国立大学法人化
平成 16 年 4 月	三重大学創造開発研究センター設置・知財総括室等設置
平成 16 年 4 月	バレー構想関連企業等立地促進補助金制度の創設
平成 16 年 4 月	みえ治験医療ネットワーク本格稼働

平成 16 年 4 月	伊勢鳥羽志摩健康サービス推進協議会設立
平成 16 年 5 月	関西バイオ推進会議（大阪商工会議所、関西経済連合会等）へ参画
平成 16 年 5 月	ドイツ・バイオコンバレー訪問団（メクレンブルグ・フォアポメルン州の経済省大臣、バイオコンバレー会長ほか）来県
平成 16 年 5 月	メディカルバレーとバイオコンバレーとの協力協定締結（ドイツ）
平成 16 年 6 月	みえメディカルバレー創成計画・同創成特区が地域再生計画・地域構造改革特区に認定
平成 16 年 6 月	みえメディカル研究会総会を開催
平成 16 年 7 月	紀北地域振興計画策定事業開始（経済産業省電源地域振興指導事業）
平成 16 年 7 月	都市エリア産学官連携促進事業（伊勢湾岸エリア）開始
平成 16 年 9 月	メディカルバレーフォーラム 2004 を開催
平成 16 年 10 月 ～11 月	医療・健康・福祉産業欧州ミッション団を派遣（ドイツ（ベルリン、メクレンブルグ・フォアポメル州）、スウェーデン、デンマーク）スカンバルトバイオリージョン（バイオコンバレー、メディコンバレー*など）との連携へ発展 *メディコンバレー：デンマークとスウェーデン国境にまたがるオーレンス地域の医療・バイオ・食品・IT 等の企業、研究所、大学等で構成される産業クラスター
平成 16 年 10 月	三重大学医学部とロストック大学医学部との研究協力協定締結（ドイツ）
平成 16 年 10 月	三重 TLO と iPAL（ドイツ・ベルリン TLO）との業務提携覚書締結
平成 16 年 10 月	三重 TLO と PVA-MV AG（ドイツ・メクレンブルグ・フォアポメルン州 TLO）との業務提携覚書締結
平成 16 年 12 月	日経バイオビジネス誌の全国バイオクラスターランキングで 5 位
平成 17 年 3 月	日独再生医療セミナーを三重大で開催
平成 17 年 3 月	平成 16 年度医薬品生産額がみえメディカルバレープロジェクト事業開始前の約 1.5 倍（全国順位 15 位）
平成 17 年 3 月	三重大学の平成 16 年度共同研究数がみえメディカルバレープロジェクト事業開始前の 2 倍、178 件（国内全大学中 18 位、中小企業割合は 2 位）

平成 17 年度（2005 年度）

平成 17 年 4 月	みえメディカルバレー知的財産活用促進事業開始
平成 17 年 5 月	GNI 投資環境視察ツアー（米国、欧州、中国等企业など）
平成 17 年 6 月	津市サイエンスシティが複合型産業集積特区の変更認定

平成 17 年 7 月	伊勢鳥羽志摩交流フロントコンソーシアム* 経済産業省サービス産業創出支援事業（基本計画策定事業）の採択 *伊勢鳥羽志摩健康サービス推進協議会の下部組織
平成 17 年 8 月	メディカルバレーフォーラム 2005 を開催
平成 17 年 8 月	東海バイオものづくり創成プロジェクト（中部経済産業局・NPO バイオものづくり中部）との協働体制確立
平成 17 年 9 月	バイोजパン 2005 への共同出展・ジョイントセミナー開催（バイオコンバレー、三重大学、三重大 TLO、津市など）
平成 17 年 9 月	第 1 回日独再生医療カンファレンスを三重大学で開催
平成 17 年 9 月	ドイツ・バイオコンバレー訪問団来県
平成 17 年 9 月	日経バイオビジネス誌の全国バイオクラスターランキングで 6 位
平成 17 年 10 月	中国上海 China Pharm への出展と中国上海・南京訪問団の派遣
平成 17 年 10 月	紀北調理師会による「熊野古道薬草弁当」の商品化
平成 17 年 11 月	メディコンバレー（スウェーデン、デンマーク）アカデミーの代表者が来県
平成 17 年 11 月	医療・健康・福祉産業欧州ミッション団を派遣（ドイツ（ベルリン、メクレンブルグ・フォアポメルン州）スウェーデン、デンマーク）
平成 17 年 11 月	三重大 TLO とルンド TLO Forskarpatent i Syd（スウェーデン）との業務提携覚書締結
平成 17 年 12 月	三重大学医学部付属病院にオーダーメイド医療部設置
平成 18 年 2 月	GNI セントレア企業招聘事業（中国、ドイツ等企業）
平成 18 年 2 月	三重大学臨床研究開発センター設置
平成 18 年 3 月	紀北地域振興計画策定調査終了（経済産業省電源地域振興指導事業）
平成 18 年 3 月	三重県内のバイオベンチャー企業 20 社に
平成 18 年 3 月	ゆめぼりす伊賀（薬事産業の集積工業団地）の 95.9%が分譲完了

平成 18 年度（2006 年度）

平成 18 年 4 月	メディカルバレー創造的人材育成事業の開始
平成 18 年 4 月	BIO2006（米国 シカゴ）へ三重大学、三重大 TLO、ベンチャー企業などとともに共同出展
平成 18 年 6 月	みえメディカル研究会総会を開催
平成 18 年 7 月	伊勢鳥羽志摩交流フロントコンソーシアム 経済産業省サービス産業創出支援事業（コンソーシアム機能強化事業）の採択
平成 18 年 8 月 ～平成 19 年 3 月	バイオコンバレー企業動向調査（ジェトロに委託）

平成 18 年 9 月	メディカルバレーフォーラム 2006 を開催
平成 18 年 9 月	バイオジャパン 2006 への共同出展（バイオコンバレー、三重大学、三重 TLO、津市など）
平成 18 年 10 月	日経バイオビジネス誌の 2006 年度全国バイオクラスターランキングで 4 位
平成 18 年 11 月	中国上海・南京にミッション団を派遣
平成 18 年 11 月	三重県健康福祉部薬務食品室と中国上海市外国投資促進中心投資促進部との連絡窓口設置確認書の締結
平成 18 年 11 月	三重県健康福祉部薬務食品室と中国江蘇省食品薬品监督管理局との連絡窓口設置確認書の締結
平成 18 年 11 月	三重県健康福祉部薬務食品室と中国南京市招務服務中心との連絡窓口設置確認書の締結
平成 18 年 11 月	みえ福祉用具フォーラム 2006 を開催
平成 19 年 2 月	GNI セントレア企業招聘事業（中国企業）
平成 19 年 3 月	第 2 回日独再生医療カンファレンスをロストック大学で開催

平成 19 年度 (2007 年度)

平成 19 年 4 月	メディカルバレー知的拠点支援事業開始
平成 19 年 4 月	健康福祉ビジネスサポート事業を開始
平成 19 年 4 月	四日市看護医療大学開学
平成 19 年 4 月	ジェットロ RIT 事業採択決定
平成 19 年 4 月	三重医療・健康・福祉産業クラスター事業開始
平成 19 年 5 月	BIO2007 ボストンへ参加（ポスター展示）
平成 19 年 5 月	みえメディカルバレー構想見直し検討開始
平成 19 年 6 月	三重大学と鈴鹿医療科学大学が包括的連携に関する協定を締結
平成 19 年 6 月	全国産学官連携会議（京都）に三重大学、津市と共同出展
平成 19 年 6 月	みえメディカル研究会総会を開催
平成 19 年 6 月	国際バイオエキスポ（東京）に NPO バイオものづくり中部と共同出展
平成 19 年 7 月 ～平成 20 年 3 月	バイオコンバレー企業動向調査（ジェットロに委託）
平成 19 年 8 月	薬学生インターンシップ受入（1 名）
平成 19 年 8 月	薬学生就職ガイダンスを薬剤師会、薬事工業会と共催
平成 19 年 9 月	メディカルバレーフォーラム 2007 を開催
平成 19 年 9 月	バイオジャパン 2007 への共同出展（三重大学、津市、三重 TLO、バイオコンバレー）
平成 19 年 10 月	全国バイオクラスター交流会に参加（大阪）

平成 19 年 10 月	中国南京・瀋陽地域にミッション団派遣
平成 19 年 10 月	三重県健康福祉部薬務食品室と中国南京市食品薬品监督管理局と連絡窓口設置確認書の覚書締結
平成 19 年 10 月	三重県健康福祉部薬務食品室と中国瀋陽市食品薬品监督管理局との連絡窓口設置確認書の締結
平成 19 年 10 月	三重県医療・健康・福祉産業ミッション団と中国瀋陽市瀋陽薬学会との連絡窓口設置確認書の締結
平成 19 年 11 月	三重大学産学官連携セミナーin 伊賀を開催
平成 19 年 11 月	みえメディカル研究会統合医療研究会を設置
平成 19 年 12 月 平成 20 年 1 月	東海地区薬系大学企業説明会に三重県薬剤師会、三重県薬事工業会と共同出展
平成 19 年 12 月	みえ福祉用具フォーラム 2007 を開催
平成 20 年 1 月	GNI・RIT 海外医療・健康・福祉関連企業招へい事業
平成 20 年 2 月	三重大学産学官連携セミナーin 伊賀を開催
平成 20 年 3 月	伊勢市産業支援センター開所

平成 20 年度 (2008 年度)

平成 20 年 4 月	鈴鹿医療科学大学に薬学部設置
平成 20 年 5 月	全国バイオクラスター交流会に参加 (山形県鶴岡市)
平成 20 年 6 月	北米先進地視察 (カナダ・コルテス島、BIO2008 サンディエゴ、アリゾナ大学など)
平成 20 年 6 月 ～平成 21 年 3 月	ビオコンバレー企業動向調査 (ジェトロに委託)
平成 20 年 6 月	全国産学官連携会議 (京都) に三重大学、津市と共同出展
平成 20 年 6 月	みえメディカル研究会総会を開催
平成 20 年 7 月	天然資源活用地域連携会議を開催
平成 20 年 7 月	国際バイオエキスポに三重大学と共同出展
平成 20 年 7 月	三重大学産学官連携セミナーin 伊賀を開催
平成 20 年 8 月	メディカルバレーフォーラム 2008 を開催
平成 20 年 8 月	薬学生インターンシップ受入 (2 名)
平成 20 年 9 月	産学官のメンバーで富山県、北海道の取組をベンチマーキング
平成 20 年 10 月	中国瀋陽・天津地域にミッション団派遣
平成 20 年 10 月	バイオジャパン 2008 への共同出展 (三重大学、津市、ビオコンバレー、NPO バイオものづくり中部)
平成 20 年 11 月	みえメディカルバレー構想第 2 期実施計画策定
平成 20 年 12 月	みえ福祉用具フォーラム 2008 を開催
平成 21 年 1 月	統合医療ワーキンググループ活動開始

平成 21 年 1 月	三重大学産学官連携セミナーin 伊賀を開催
平成 21 年 2 月	全国バイオクラスター交流会に参加（神戸市）
平成 21 年 2 月	中国（瀋陽）医療・健康・福祉関連企業・有識者招へい事業
平成 21 年 2 月・3 月	天然資源活用セミナー開催（熊野市、伊勢市）

平成 21 年度 (2009 年度)

平成 21 年 4 月	メディカルバレーふるさと雇用再生特別基金事業を開始
平成 21 年 4 月	三重大学大学院地域イノベーション学研究科設置
平成 21 年 4 月	産学官連携地域産業創造センター「ゆめテクノ伊賀」（三重大学産学官伊賀研究拠点）開設
平成 21 年 5 月	統合医療分野の世界的権威アリゾナ大学アンドルー・ワイル博士を三重に招へい（意見交換、県内施設見学）
平成 21 年 6 月	全国産学官連携会議（京都）に三重大学、津市と共同出展
平成 21 年 6 月	みえメディカル研究会総会を開催
平成 21 年 7 月	国際バイオエキスポに三重大学と共同出展
平成 21 年 7 月	三重大学産学官連携セミナーin 伊賀を開催
平成 21 年 8 月	産学官のメンバーで沖縄県の取組をベンチマーキング
平成 21 年 9 月	緊急雇用創出事業により、アンケート調査実施
平成 21 年 9 月	市町、商工会・商工会議所対象の天然資源活用意向調査を実施
平成 21 年 9 月	三重大学先端テクノロジー研究会を伊賀研究拠点で開催
平成 21 年 10 月	ウェルネスの旅を開催
平成 21 年 10 月	バイオジャパン 2009 への共同出展（三重大学、津市、バイオコンバレー、NPO バイオものづくり中部）
平成 21 年 10 月	中国瀋陽・本溪地域にミッション団派遣
平成 21 年 11 月	医食同源フォーラムを多気町で開催
平成 21 年 11 月	東海薬剤師学術大会でポスターセッション出展(岐阜市)
平成 21 年 12 月	みえ福祉用具フォーラム 2009 を開催
平成 22 年 1 月	三重大学産学官連携セミナーin 伊賀を開催
平成 22 年 2 月	全国バイオクラスター交流会に参加（沖縄県那覇市）
平成 22 年 2 月	メディカルバレーフォーラム 2010 を開催（基調講演：茂木健一郎氏）
平成 22 年 2 月	三重大学と瀋陽薬科大学との学術協力・交流に関する一般協定書締結
平成 22 年 2 月	三重大学と瀋陽薬科大学との学生交流に関する一般協定書締結
平成 22 年 3 月	ウェルネスの旅を開催

平成 22 年度 (2010 年度)

平成 22 年 5 月	統合医療分野の世界的権威アリゾナ大学アンドルー・ワイル博士を三重に招へい（意見交換、県内施設見学）
平成 22 年 6 月	第 9 回産学官連携推進会議－科学・技術フェスタ in 京都－に三重大学、津市と共同出展
平成 22 年 6 月	みえメディカル研究会総会を開催
平成 22 年 6 月	中国遼寧省食品薬品监督管理局技術審査センター職員 3 名来県（意見交換、県内視察）
平成 22 年 6 月	地域治験ネットワーク連絡会議を三重県で開催（参加地域：静岡、大阪、福岡、三重）
平成 22 年 6 月	国際バイオエキスポに三重大学と共同出展
平成 22 年 7 月	三重大学医学部附属病院に統合医療鍼灸外来の開設
平成 22 年 7 月	中国駐名古屋総領事館総領事との意見交換会
平成 22 年 7 月	三重大学産学官連携セミナー in 伊賀を開催
平成 22 年 8 月	薬科大学学生インターンシップ受入（5 名）
平成 22 年 9 月	メディカルバレーフォーラムを開催
平成 22 年 9 月	バイオジャパン 2010 に三重大学、津市、医食同源みえと共同出展
平成 22 年 10 月	中国瀋陽・本溪地域にミッション団派遣
平成 22 年 10 月	こころとからだの健康ツーリズム・フォーラムを多気町で開催
平成 22 年 11 月	医食同源フォーラムを多気町で開催
平成 22 年 12 月	みえ福祉用具フォーラム 2010 を開催
平成 22 年 12 月	ウェルネスの旅を開催
平成 23 年 1 月	三重大学産学官連携セミナー in 伊賀を開催
平成 23 年 2 月	全国バイオクラスター交流会を津市で開催
平成 23 年 2 月	伊勢調理師協会等による「地元天然資源を活用した医食同源料理～伊勢食道～」の開発
平成 23 年 2 月	関西バイオビジネスマッチング 2011 に県内ベンチャー企業が出展
平成 23 年 3 月	メディカルフォーラム in 伊賀の開催

平成 23 年度 (2011 年度)

平成 23 年 7 月	みえライフイノベーション推進事業（医療・福祉機器等の研究開発・実用化の促進事業）を開始
平成 23 年 7 月	みえメディカル研究会総会を開催

平成 23 年 7 月	三重大学発産学官連携セミナーin 伊賀を開催
平成 23 年 8 月	薬科大学学生インターンシップ受入 (7 名)
平成 23 年 10 月	健康産業シンポジウム (主催: 北海道バイオ産業クラスター・フォーラムほか) にパネリストとして参加
平成 23 年 10 月	ウェルネスの旅を開催
平成 23 年 10 月	三重大学と瀋陽薬科大学とのワークショップを開催
平成 23 年 10 月	全国バイオクラスター交流会に参加 (横浜市)
平成 23 年 11 月	プラチナ社会研究会食品機能性分科会に参加 (主催: 新潟県、三菱総研)
平成 23 年 11 月	みえ統合医療講演会を多気町で開催
平成 23 年 11 月	尾鷲セラピスト養成講座を開講
平成 23 年 12 月	みえ福祉用具フォーラム 2011 を開催
平成 24 年 1 月	タイに薬事産業ミッションを派遣
平成 24 年 2 月	メディカルバレーフォーラムを開催
平成 24 年 2 月	メディカルバレーフォーラムでメディカルバレープロジェクトの取組等を紹介する展示会を併催
平成 24 年 2 月	三重大学発産学官連携セミナーin 伊賀を開催
平成 24 年 3 月	PMDA セミナーを三重大学で開催
平成 24 年 3 月	「尾鷲セラピストと行く熊野古道」ツアーを開催
平成 24 年 3 月	みえメディカルバレー構想第 3 期実施計画を策定

平成 24 年度 (2012 年度)

平成 24 年 4 月	みえメディカルバレー構想第 3 期実施計画開始
平成 24 年 6 月	メディカル・デバイス産業振興協議会にオブザーバーとして参加
平成 24 年 6 月	インターフェックスジャパン (東京) に出展
平成 24 年 7 月	みえライフイノベーション総合特区の指定 (7 月 25 日)
平成 24 年 7 月	台湾産業ミッションに参加 (三重県主催)
平成 24 年 8 月	三重県・岐阜県知事対談による医療・福祉機器分野での産業連携の合意
平成 24 年 8 月	薬科大学学生県職員インターンシップ受入 (10 名)
平成 24 年 8 月	薬科大学学生薬系企業インターンシップ受入 (4 社 13 名)
平成 24 年 10 月	みえライフイノベーション総合特区推進本部の発足
平成 24 年 10 月	鈴鹿医療科学大学「医療福祉機器開発センター」開所 (10 月 19 日)
平成 24 年 10 月	「サイバーダイン(株)中部・近畿拠点」開所 (10 月 19 日)
平成 24 年 11 月	食品の機能性表示に関する情報連絡会 (北海道大学) に参加

平成 24 年 11 月	治験推進シンポジウムを開催
平成 24 年 11 月	みえライフイノベーション総合特区計画の認定（11 月 30 日）
平成 24 年 12 月	中部地区医療・バイオ系シーズ発表会（名古屋）に出展
平成 24 年 12 月	みえ福祉用具フォーラム 2012 を開催
平成 24 年 12 月	第 1 回三重県・岐阜県医療福祉機器等開発連携会議を開催
平成 25 年 1 月	マレーシア薬事産業ミッション（三重県薬事工業会主催）
平成 25 年 1 月	メディカルバレーフォーラムを開催
平成 25 年 2 月	第 2 回三重県・岐阜県医療福祉機器等開発連携会議を開催
平成 25 年 2 月	三重大学発メディカルバレーセミナー in 伊賀を開催
平成 25 年 3 月	静岡がん会議 2012 に参加
平成 25 年 3 月	メディカルバレーフォーラム in 伊賀を開催

平成 25 年度（2013 年度）

平成 25 年 4 月	みえライフイノベーション総合特区基盤整備事業、新産業創出支援事業（薬農連携）を開始
平成 25 年 6 月	三重大学先端研究シンポジウムを開催（大阪）
平成 25 年 7 月	三重県・岐阜県医療福祉機器等開発連携会議を開催（津）
平成 25 年 7 月	三重先端がんフォーラムを開催（三重大学・鈴鹿医療科学大学主催）
平成 25 年 7 月	インターフェックスジャパンに出展（東京）
平成 25 年 7 月	三重ものづくり企業と医療機器メーカーとの交流・展示会 in 本郷を開催（東京）
平成 25 年 8 月	薬科大学学生県職員インターンシップ受入（5 名）
平成 25 年 8 月	薬科大学学生薬系企業インターンシップ受入（3 社 5 名）
平成 25 年 8 月	ブラジル経済ミッションに参加
平成 25 年 9 月	みえライフイノベーション推進センター（MieLIP）7 カ所設置（総合特区調整費を活用）
平成 25 年 9 月	MieLIP キックオフフォーラムを開催
平成 25 年 9 月	鈴鹿ロボケアセンターを開設
平成 25 年 10 月	BioJapan2013 に出展
平成 25 年 10 月	HOSPEXJapan2013 に出展
平成 25 年 11 月	臨床研究・治験推進シンポジウムを開催
平成 25 年 12 月	みえ福祉用具フォーラム 2013 を開催
平成 26 年 1 月	三重県・岐阜県医療福祉機器等開発連携会議を開催（岐阜）
平成 26 年 1 月	インドネシア薬事産業視察（三重県薬事工業会主催）
平成 26 年 1 月	医療機器開発にかかる広島県との連携にむけた打ち合わせを実施（津）

平成 26 年 2 月	みえライフイノベーション総合特区フォーラムを開催
平成 26 年 2 月	PMDA による薬事戦略相談会を開催（津）
平成 26 年 2 月	メディカルバレーフォーラム in 伊賀を開催
平成 26 年 2 月	MieLIP 多気健康フォーラムを開催
平成 26 年 2 月	福祉用具・ものづくりイノベーションフォーラムを開催
平成 26 年 2 月	尾鷲セラピスト健康セミナーを開催
平成 26 年 3 月	健康まちづくりセミナーを開催（鳥羽）
平成 26 年 3 月	みえライフイノベーション総合特区フォーラム in 東京・大阪を開催（東京、大阪）
平成 26 年 3 月	みえライフイノベーション総合特区成果発表会を開催

平成 26 年度（2014 年度）

平成 26 年 4 月	健康寿命延伸産業育成事業、薬用植物供給体制構築事業を開始
平成 26 年 5 月	三重ものづくり企業と医療機器メーカーとの交流・展示会 in 本郷を開催（東京）
平成 26 年 6 月	三重大学先端研究シンポジウムを開催（大阪）
平成 26 年 7 月	インターフェックスジャパンに出展（東京）
平成 26 年 8 月	薬科大学学生県職員インターンシップ受入（10 名）
平成 26 年 8 月	薬科大学学生薬系企業インターンシップ受入（1 社 1 名）
平成 26 年 8 月	三重県北米経済産業交流
平成 26 年 9 月	みえライフイノベーション総合特区セミナーを開催（三重テラス）
平成 26 年 10 月	統合型医療情報データベース構築に着手（三重大学医学部附属病院）
平成 26 年 11 月	韓国医薬品・医療機器産業連携可能性調査を実施
平成 26 年 11 月	みえ福祉用具フォーラムを開催（津）
平成 26 年 11 月	三重バイオフィォーラム 2014（志摩）
平成 26 年 12 月	健康・省エネシンポジウム in みえを開催（津）
平成 26 年 12 月	三重大学先端研究シンポジウムを開催（東京）
平成 26 年 12 月	みえライフイノベーション総合特区セミナーを開催（三重テラス）
平成 26 年 12 月	みえライフイノベーションフォーラムを開催（津）
平成 27 年 1 月	みえライフイノベーション総合特区セミナーを開催（三重テラス）
平成 27 年 1 月	スイス・イタリア薬事産業視察（三重県薬事工業会主催）
平成 27 年 2 月	三重大学産学官連携セミナー in 伊賀を開催（伊賀）
平成 27 年 3 月	みえライフイノベーション総合特区地域協議会を地域版次世代ヘルスケア産業協議会として位置付け、設置
平成 27 年 3 月	食バリューチェーン推進事業、県産材活用健康住宅普及事業を開始

平成27年度 (2015年度)

平成27年 4月	「みえ健康住宅産業振興フォーラム」設立
平成27年 5月	食の機能性評価相談窓口を設置 (28年3月まで)
平成27年 6月	経済産業省・健康寿命延伸産業創出推進事業に「亀山QOL支援モデル事業」が採択
平成27年 7月	「健康・省エネ住宅推進委員会」委員に知事が就任
平成27年 8月	医療機器関連セミナーを開催
平成27年 8月	薬科大学学生薬系企業インターンシップ受入(1社1名)
平成27年 8月	薬科大学学生県職員インターンシップ受入 (8名)
平成27年 8月	ビジネスマッチングミーティングを開催 (東京)
平成27年 9月	国循が取り組む「かるしお制度」認定セミナーを開催
平成27年 9月	大阪医療機器協会主催の医療機器開発・販路開拓マッチング商談会に出展 (大阪)
平成27年 10月	健康・省エネシンポジウム in みえを開催 (津)
平成27年 10月	MieLIP 津セミナーを開催 (津)
平成27年 11月	みえ福祉用具フォーラム 2015 を開催 (津)
平成27年 11月	日本GE&三重県内企業技術交流・商談会を開催 (四日市)
平成27年 12月	日本GE&三重県内企業技術交流・商談会を開催 (東京)
平成27年 12月	広島・三重・岐阜ものづくり企業展示・交流会 in 本郷を開催 (東京)
平成28年 1月	MieLIP 津セミナーを開催 (津)
平成28年 2月	メディカルバレーフォーラム in 伊賀を開催
平成28年 2月	第14回 三重大学発産学官連携セミナーin 伊賀
平成28年 2~3月	米国ワシントン州ヘルスケア産業連携可能性調査を実施
平成28年 3月	みえライフイノベーション総合特区セミナーを開催 (三重テラス)
平成28年 3月	第2回主要地域治験ネットワーク連携会議に参加
平成28年 3月	みえメディカルバレー 構想第4期実施計画を策定

みえメディカルバレー構想
第4期実施計画書

平成 28 年 3 月

みえメディカルバレー推進代表者会議

事務局

三重県健康福祉部ライフイノベーション課
〒514-8570 津市広明町 13
電話 059-224-2331 FAX059-224-2344
E-mail life@pref.mie.jp